

『ニュータウン入口』第一稿

(リーディング公演用テキスト)

注記

これは書き直されるのを前提にした戯曲である。
戯曲ともいえないほどの言葉の断片である。
リーディング公演のために用意された。

人物

アンティゴネ（長男である兄を探す次男）
イスメネ（その弟）

F

鳩男

夫婦

根本洋一
根本和子

不動産業者（高村）

イスメネのバイト先（ビデオショップ）で働く女たち
オブシディアン
ジャスパール
ペリドット

日本ダンス普及会

ニュータウン支部局長（加奈子）
支部局長の息子（浩）
副事務局長（坂庭）

事務局長・真昼子（実はポリュネイケス）

そこは分譲地とおぼしき場所。
ニュータウンの一面のさほど広くはない土地。
だが、ここではあまり状況としての空間の意味
はない。
ただの空間。なにもない空間。
ただ、ひとまずいま、ここは分譲地である。
土から水道管が出て水がちよろちよろ流れてい
るようだがそれはわかるかわからないかという
程度だ。

0 祈り

加奈子 その日には、あなたは言うであろう。
ポリュネイクス 「主よ、わたしはあなたに感謝します。
あなたはわたしに向かって怒りを燃やされたがその怒り
を翻し、わたしを慰められたからです。見よ、わたしを
救われる神。わたしは信頼して、恐れな。主こそわた
しの力、わたしの歌わたしの救いとなってくださった。」
加奈子 あなたたちは喜びのうちに救いの泉から水を汲む。

1 分譲地

いま、中央に若い夫婦（洋一と和子）がいる。
それを取り囲むように日本ダンス普及会の加奈
子、浩、そして事務局長・真昼子、副事務局長

がいる。
さらに、不動産業者の高村がいた。

その者らを観察するかのようアンティゴネは
少し離れた場所にいる。

洋一 ここが約束の地だ。（和子に）おまえ、約束の地って
言葉がわかるかい？

和子 わからない。

洋一 僕たちが、日々、節約して貯めた財産を元によく
手に入れることのできた、自分たちの土地だよ。

和子 節約ばかりの人生だった。夜になったからって電気
もつけず、暗くなれば眠るのが人にとってあたりまえの
生活だってあなたは言った。どこに行くのも自転車だっ
た。タクシーはおろか、電車だって乗らなかった。たい
へんだったわね。自転車に乗って無謀にも敢行した能登
半島の旅。

洋一 そうさ。だから、財産と同時に、健康も手に入れる
ことができたんじゃないか。

和子 どこまでも行けるのね、自転車ってすごい。わたし、
自転車のこと、ほんとに甘く見ていたのよ。

だが、不意に、

加奈子 その日には、あなたたちは言うであろう。

ポリュネイクス 「主に感謝し、御名を呼べ。」

以下、日本ダンス普及会のメンバーが同時に発
声する。

諸国の民に御業を示し
気高い御名を告げ知らせよ。
主にほめ歌をうたえ。

そこまで言葉にしたところで、

洋一 (高村に) これはなんです。

それでメンバーたちは口をつぐんだ。

高村 (無視して) ここはあまり磁場がよくないんです。
いや、もちろん、条件としてはとてもいい土地です。
ごらんください。ここから向こうにかけて傾斜になっ
ていますね。ほら、ながめがいい。そして背後には森
があります。まだ未開発の土地です。夏になると森か
ら涼しい風が吹いてきます。

洋一 でも、森もいずれ、開発されるんじゃない
か。

高村 そこです。だから、あんまりお薦めはできない
ですけどね。ただ、一番の問題は、磁場です。かつて
この土地がなんだったか。それはわからない。誰も教
えてくれません。だけど、ここに立っていると、なに
か気分が悪くなりませんか？

和子 でも、素敵な土地よ。素敵な街よ。

高村 たしかに素晴らしい土地かもしれませんが。たしか
に、あなたがたにとつては……。ほら、見てください。
美しい街です。道路もきれいに整備されている。安全
も保証され、誰もがこの街に憧れます。だけどねえ、
人間それだけで、生きて行けますか？

和子 高村さん、あなた不動産屋さんなのに、売りたい

ないんですか。

高村 そんなことはありません。わたしども、カイン不
動産がお届けする、「カナン」シリーズは、新しい宅地
分譲のカタチです。事業主から販売を委託された魅力
的な宅地に大手ハウスメーカーとのコラボレーション
で安心と安全の建物をコーディネートしお客様へお届
けいたします。もちろん、建物はお客様のご希望を最
大限に叶えるため、フリープランによる建築条件付土
地分譲でのご提供となります。是非、「カナン」シリ
ーズの中から貴方だけの、「約束の地」を見つけて下
さい。

洋一 ここがそうなんですか？ やっぱり約束の地なん
ですか？

高村 それはわかりません。

和子 高村さん、売りたいくないんですか？

高村 五分五分ですか。

和子 じゃあ、聞きますけど、もし高村さんだったら、
ここに住みますか？

高村 のどが渴きませんか？ ビール、飲んでいいです
か？

洋一 ビールって、あなた。

坂庭 (洋一と和子に) あなた方は、ダンスをしたくは
ないですか？

沈黙。

高村はビールを飲む。

洋一 ダンスの、あの、そっちのほうの、あなたがた、
あれなんですか？

ポリュネイクス 申し遅れました。私たち、日本ダンス

普及会の者です。

加奈子 やめなさい。強引にお誘いするようなものではないんだよ。ダンスは、自主性のもんだからね。からだのなかから、湧いてくる躍動がダンスになるのだから、なにもおまえたち、そんなに強引にこちらのことを話すことはないんだ。まるでそれでは出しやばりじゃないか。節度をもたなくてはなりません。この方がまったく踊る気がなかったら、踊れと押しつけたところで、からだは動くわけがありません。

和子 ダンスはやりますよ。これまでも、いろいろやってきました。若いころはディスクにも行きましたし。

坂庭 マイムマイムは？

和子 それ、

ポリュネイクス 「それ」、って、それは？ その言葉に含まれた意味はなんですか？ 「それ」と発したその指示語に含まれた、あなたの意志はなんですか？

和子 いや、ただ、いま不意に口から、

坂庭 (遮って) あなたは、フォークダンスだからって

和子 甘く見ているのじゃありませんか。

和子 フォークダンスなんですか？

坂庭 フォークダンスだったら小学生でも簡単に踊れると思ってばかりしていませんか。素人はこれだから困るんです。いや、素人という言い方が不適切だったら訂正しますが、つまり、あなたのようなフォークダンスの門外漢はすぐに踊ろうとします。だけど、重要なのは、思想です。その基礎的な理論です。かつてフォークダンス運動は様々な困難に遭遇してきました。差別や偏見にもさらされてきました。やれ、時代遅れだの、やれ時代錯誤だの、甘い感傷だのと嘲笑もされました。私たちフォークダンスは社会から忘れられ、そ

して、ときおり思い出されても笑いの種にしかならなかったのです。だからこそ、そうしたまちがったフォークダンスに対する考え方から人を啓蒙するためにも新たなフォークダンス思想を学ばなければならないんです。

洋一 ……踊らないんですか？

坂庭 ……踊りたいんですか？

洋一 踊らないんですね？

坂庭 踊りませんよ。(ポリュネイクスに同意を求め)

ねえ。

ポリュネイクス だって、マイムマイムよ。

坂庭 あんな恥ずかしいもの。俺に踊らせる気か？

洋一 いや、そんなこと一言も、

浩 (不意に) 母さん、行こう。きつといつか、この人たちもここに住めばわかるはずだよ。ニュータウンに住めば。

沈黙。

やがて、浩だけ歩き出す。

加奈子 そうだね。浩の言うとおりだね。坂庭君、あんまりもめごとを起こしちゃだめよ。あなたのように戦闘的な態度が、また新たな報復を生むのですから。洋一 報復ってなんですか？ わたしがなにかするっていうんですか？

日本ダンス普及会の四人は去ってゆきつつ、

加奈子 その日には、あなたは言うであろう。

ポリュネイクス 「主よ、わたしはあなたに感謝します。

あなたはわたしに向かって怒りを燃やされたが
その怒りを翻し、わたしを慰められたからです。

見よ、わたしを救われる神。

わたしは信頼して、恐れない。

主こそわたしの力、わたしの歌

わたしの救いとなってくださった。」

加奈子 あなたたちは喜びのうちに救いの泉から水を汲む。
四人 喜びのうちに救いの泉から水を汲む。

それを繰り返して四人は行ってしまった。残された、洋一、和子、高村はただ、見ていた。

アンティゴネ 「喜びのうちに救いの泉から水を汲む」か……。俺も学校で踊らされたことがあった。マイムマイムだったかあれは。忘れたな。女の子と手をつなぐのが照れくさかった。でも、好きだった子と手をつなげないかときどきしていたのはたしかだ。マイムマイム。知ってますか。このダンスがどこで生まれたか？いやもつとゆっくり話をしなくちゃならない。話しておかなくちゃならないことはまだ数多くあるんだ。どこから話そう……。兄の話？ 石の話？ それとも、この土地の話。ここはニュータウンだ。美しい街だ。みんなが幸福に暮らしている。なぜなら、ここはニュータウンだからだ。

と不意に、

小さな声 アンティゴネ……。アンティゴネ……。アンティゴネ（気づいて）もう、そんな時間か？ お

話がはじまる。

すでに、洋一、和子、高村の姿もない。ただアンティゴネだけがいた。

2 連絡

暗がりにアンティゴネとイスメネの姿がぼんやり浮かぶ。

アンティゴネ 暗号名イスメネへ。

こちら、おまえの兄すなわち暗号名アンティゴネだ。

この連絡がおまえにしっかり届かんことを願って。

おまえからの手紙はたしかに受け取った。

それでおまえが不安に思っていることもわかった。

だが、暗号名イスメネよ、俺たちの任務をおまえも知らないわけではないだろう。

俺たちの兄、

そう、三兄弟のいちばん上の兄を探す旅は、まだ終わってはいない。いや、むしろ、はじまったばかりだと言

っている。

わかるか。暗号名イスメネよ。

いや、わからないかもしれぬ。

おまえは愚かだ。

ばかだ。

おまえにとつて二番目の兄である俺は、

それがとても悲しい。

愚かな弟を持った俺は、ずっと苦労してきた。

だが、ばかな弟ほどかわいいともいう。

聞こえるか、弟。つまり暗号名イスマネよ。

イスマネ わかった。暗号名アンティゴネこと、二番目の兄さん。俺は鳩を探す。どこにいるか、だいたいわかっているんだ。

アンティゴネ 例の場所か？

イスマネ そう。例の分譲地。

それでイスマネは探す。すぐに鳩男は見つかる。鳩男はじつとFのする行為を見ていた。

アンティゴネの姿は消える。

そのころ、鳩男は、少しずつFがしている作業現場に近づいた。

鳩男 あんたも埋めるのかい？

F また見ていたのか？

鳩男 また、って、俺、はじめてあんたに会ったけど。

F また、見られたか（とひとりごちる）。そうやって

俺はいつも、誰かにこっそり見られているんだな。

鳩男 埋めるのは俺の専門かと思った。それ石だね。た

だの石。どこにでも転がっている石つぶて。そんなもの埋めてどうすんの？

F おまえにはここがどこかわかっていない。

鳩男 分譲地だ。

F いや、そうじゃない。遺跡だ。471B。時間がここに堆積している。だが、いまじゃなんでもない宅地分譲地。どこにでもあるような土地。知らないだろう。ここ

がどんなに歴史のある土地か。この土と、土に埋もれた石たちが、なにを語り出すか……、おまえ、誰だ？

鳩男 鳩男。

F 鳩？

鳩男 くーっぽっぽぼ。くーっぽっぽぼ。

F 伝書でもするのか。手紙を遠く離れた場所まで運ぶのか？

鳩男 運ぶんじゃなく、ここに埋める。

F 埋めるのは俺の仕事だ。

鳩男 変な人に会っちゃまったな。ま、いいか、俺は俺の仕事をするだけだ。

そうやって鳩男もまた、土に手紙を埋めようとしたのだが、

F なにをする。埋めていいのは俺だけだ。

それでF、鳩男をはり倒す。

そこにちよとやって来たのがイスマネだった。かのように見える。

イスマネ 鳩。鳩。いるんだろ。まだ夜もあけぬこんな

時間、夜と朝のはさまのこんな時間に、鳩のおまえに夜目がきくのか？ 鳩のくせにわかるのか？ なにも

かもお見通しだとも言うのか？ 鳩よ、鳩よ。

鳩男 （いきりたち）誰だ、俺を鳩呼ばわりするのは？

イスマネ 暗号名イスマネ。おまえ、鳩じゃないのか？

鳩男 （ようやく気がつき）あ、イスマネ。そうです。

鳩です。

イスマネ おまえ、ほんとに鳩か？

鳩男 くーっぽっぽぼ。くーっぽっぽぼ。

イスマネ 以前から、俺、思ってたんだ。おまえ、人間じゃないのかって。

鳩男 くーっぽっぽぼ。くーっぽっぽぼ。

イスメネ あ、鳩だ。

鳩男 ええ、鳩です。

イスメネ 見えるのか。鳩のおまえにこの暗さがわかるのか？

鳩男 暗視スコップがあります。そうじゃなければ、あんたたちの伝言をこの場所に埋めることさえできない。イスメネ だけど、きのう、アンティゴネからの連絡は届かなかった。

鳩男 先客がいて、それで邪魔するんです。

F はさらに石を埋めているようだった。

イスメネ 誰だ？

鳩男 わからない。石を埋めてるんですよ。ずっとあんなふう。いかれちまってるんです。といっても、俺も人のこと言えた義理じゃない。こんなところに手紙を埋めてるんだ。じゃ、これ。アンティゴネさんからの手紙。直接、来てもらっちゃ、仕事半分ですね。ほんとに埋めるのが仕事なのに、あのいかれたやつでせいで……、やっぱり埋めとくか、

それで手紙を土に埋める。

鳩男 埋めました。

イスメネ ありがとう。

イスメネ、土を掘り返す。ところが、

イスメネ おや、おかしいな。これ、手紙じゃない。お

まえ、いったいなにを埋めたんだ？

イスメネが手にしているのは石だった。

鳩男 手紙ですよ。いま、たしかに俺は手紙を埋めました。

イスメネ だけど、これ。紙なんかじゃない。見ろ。これはなんだ？

鳩男 石ですか？

イスメネ ああ、石だ。それも不思議な形をしている。

この曲線の美しさ。手にしているとどこか懐かしい気持ちに人をさせる。

いつのまにか、そんな二人の背後にFはいた。

F よく見つけたな。槍先型石器だ。この地層はたしてナニ層になるだろうか。熱心な観察と、探査のために歩くこと、そして、多くの土地を歩き、その土を調べ、よく知ること。それが石を発掘する基本だ。

わかるかな？ 石の基礎……。

イスメネ ……。

F きみたちは、相沢忠洋先生を知っているか。

相沢先生は若き日、納豆を売る行商などしつつ、群馬県の赤土の地をいくどとなく歩いた。

それはきわめて地道な仕事だ。

身近には誰も、相沢先生の仕事を理解する者などなく、ただの「石ばか」と呼ばれもした。

けれど相沢先生の、そうした地道な努力のかいあって、昭和二十四年、すなわち一九四九年、群馬県新田郡笠懸村岩宿で、それと同様の槍型石器を発見したのだ。

その発見は偉大であった。
なぜなら、それまでの考古学では存在しないとされてきた、この国の旧石器時代の存在を、その石の発見が証明したからだ。

話を聞き終わると、鳩男は行こうとする。

F どこに行くんだ。まだ話にはつづきがある。
鳩男 いや、俺は鳩男で。

F きみは芹沢長介先生を知っているだろうか。
鳩男 だから鳩男にそんな話は無理ですから。

鳩男は逃げようとするが、Fはそれを追う。それをイスメネは見ていたが、

イスメネ 誰だ？ どこかで会った気がする。……兄さん？ いちばん上の……、いや、あんなに俺と歳が離れているわけがない。じゃあ、どこで会った？

F おい、話を聞け。俺の話は長いぞ。歳をとると話は長くなるんだ。若いやつはいやがるがな、かまうものか、俺は話すぞ。いくらでも話すぞ。石の話だ。石器の話だ。

だが、鳩男は行ってしまった。
茫然とそれを見ながら立ちつくすF。

3 ビデオショップ

遠くから声がする。

女たち イスメネ。イスメネ。イスメネ。

イスメネ 声だ……。俺を呼んでる……。もう、そんな時間なのか？ もう店が開くのか？ もうバイトの時間か？ ……それにしても、この石はいつたいなんだ？

女たちがやってくる。Fは立ちつくす。イスメネは手にした石を見ている。

オブシディアン 変な名前。

ジャスパー 変な名前。

ペリドット 変な名前。

三人 イスメネ。

イスメネ 名前の話もういいよ。

ペリドット だけど変な名前よ。

ジャスパー イ・ス・メ・ネ。

三人、笑う。

イスメネ やめてくれよ。もう名前の話はいいよ。

オブシディアン だってこの子の名前は、ジャスパー。

ペリドット 別名「碧玉」。勾玉にも使われた由緒正し

き石。

オブシディアン この子の名前は、ペリドット。八月の

誕生石。

ジャスパー 火山の宝石。淡い緑のその美しさ。

オブシディアン 神秘的な輝き。

ペリドット そしてこの子は、オブシディアン。黒曜石。

ガラスのようにすんだ黒。鋭い断面。手を触れたら血が出るわ。

オブシディアン イスメネ。

ペリドット 変な名前。

ジャスパール なんの石？

オブシディアン イスメネ。

ペリドット 聞いたことない。

ジャスパール 石なの？

オブシディアン それとも、虫？

イスメネ ほっといてくれよ。さあ、仕事だろ。店を開

けなくちゃ。

F、振り返ると、女たちの前に来て、数本のビデオを差し出す。

F これ。

オブシディアン いらっしやいませ。いつもご来店ありがとうございます。

ジャスパール (気持ちをこめて) 『もしも僕が銭湯の番台

だったら完全版』『私立イカセ学園』、そして、(やや投げ

やりに) 『ニュータウン入口』。

ペリドット こちらの三本でよろしいですね。返却は一

週間で？

F いや、一日でいい。どうせ見やしないんだ。なにしろ、俺の家にはビデオデッキもDVDプレイヤーもな

い。見たくても見られない。

ペリドット それでも借りるんですか？

F 人並みの生活がしたいからね。

オブシディアン でしたら会員証をお願いします。

F 会員証？ 会員？ なんの？ 会員なんかになった

覚えはない。

イスメネ 思いだした。そうだ。あんたはいつもバイト

先にくる客だ。そして会員証を求めるときまってそんなふうにはわけのわからないことを言うんだ。それでいて、いつだって、あらかじめ会員証を手にしてるんだ。だったらさっさと出せよ。

イスメネ、Fに近づいてその手から会員証を奪い取る。

F 会員証？ 会員？ 俺はいつ会員になった？ わか

らない。その意味が。会員？ カイイン……？

イスメネ (会員証を見て) F？ その会員証にはFと

しか書いてありませんでした。イニシャル。そんなば

かな。それともそれが名前？ 変な名前だ。変な名前

……。イスメネ。俺が？ 俺のほんとうの名前は……、

ふと、あたりの様子が変化し、

オブシディアン みんな忘れてしまったのですか？

F 忘れた。

ジャスパール では、少し話を聞かせてください。

F ああ。

ペリドット 取材に応じようと思ったいまの心境は？

F いつか私の口から本当のことを話す義務があるし、

主治医から「マスコミが取材を申し込んだら本当のこと

とを話さない」と言われていたので、いい機会だと思

った。

オブシディアン じゃあ、石を埋めた理由はなに？

F みんなで楽しいことができればなあ、と。名誉欲で

はない。しんどかったですね、だんだん周囲の期待は

エスカレートしましたから。何回かやめたいと思って

ました。

ジャスパー どうやって埋めたのかしら。

F わからない。病気のために当時の記憶がない。

ペリドット じゃあ、いつまで記憶が残っているの？

F 宮城県古川市で開かれた旧石器考古展を見てから一年ぐらいはうっすらと覚えている。その後、ねつ造したことを告白するまでの二十六年間ぐらいの記憶がずっと飛んでしまって。家族のことも今は分からない。

袋に入れてペリドットがビデオを渡そうとしたが、Fが歩き出すので、

ペリドット お客様。

F ……。

ジャスパー お客様。

F うん、いや、代金はそこに。

ジャスパー ええ、いただきました。ですから、

ペリドット ビデオを。

F 二十六年間の記憶がずっと飛んでしまって……。

F はそのまま去ってゆくので、

ペリドット 忘れ物です。ビデオ。

ジャスパー 『もしも僕が銭湯の番台だったら完全版』

『私立イカセ学園』

ペリドット いいんですか、お客様、……『ニュータウン入口』。

Fを追って、ジャスパーとペリドットも去ってゆく。その姿をオブシディアンはぼんやり

見ていた。

沈黙。

イスメネ (いきなり) ほんとのことを話そうか。

オブシディアン ほんとのこと？ どうして大統領はあんなにも熱心に戦争をしようとしたか？ なぜ、地球は温暖化するか、そのほんとうの話。それともあれかしら、ビデオ屋でレンタルすると人はなぜ延滞してしまつか。見なくちゃなあと思っっているうちに、どうして時間は過ぎてゆくか。そして、この土地の成り立ち……、(ほんとうに小さな声で) ……に住む者よ叫び声をあげ、喜び歌え。……の聖なる方は、

イスメネ (強く遮り) ちがう。名前の話だよ。

オブシディアン イスメネ？

イスメネ ……ほんとのことを話そう。半年前までやっていたバイト先の社長が東北の出身だったんだ。

オブシディアン ……。

イスメネ ……。

オブシディアン ……で？

イスメネ それだけだ。

オブシディアン わからない。

イスメネ わからないのか。きみはばかか？ ごめん。言い過ぎだった。ばかなんて、きみにひどく失礼だった。僕も兄貴によく言われるんだ。おまえはばかだった。いつもばかばかりで、ずっと言われ続けていた。すぐ上の兄にも。そして、一番上の兄にも。

オブシディアン お兄さんがいるの？ しかも、二人？

じゃ、三人兄弟なのね？
イスメネ また怒られる。こんなこと話しちゃいけない

ったんだ。またばかって言われる。

オブシディアン 大丈夫よ。わたし、いまのこと誰にも話さない。だけど、わからない。バイト先の社長が、東北の出身だったって、どういうこと？

イスメネ もうその話はいいよ。

オブシディアン ほんとのこと話してくれるんじゃないの？

イスメネ もういいよ。……だって、嘘だからさ。

オブシディアン 嘘？

イスメネ そんな東北出身の社長なんて嘘だ。人材派遣会社でバイトしていたなんて、みんな嘘だ。そこは小さなビルで、その三階にある小さな事務所には電話がいくつもあって、登録している会社から募集があるとこちらから人材を提供するのも嘘なら、僕の名前が石嶺で、でも、東北出身の社長だから、どうしても訛って、だから、イシミネが、イスメネになっってしまうなんて、いま作ったでたらめな話だよ。

オブシディアン ……。

イスメネ イシミネが、イスメネって、訛るんだ。……

嘘だけだね。

オブシディアン ……。

イスメネ ……きみに、いいものをあげるよ。ほら。

そう言っ出て出したのは、分譲地で掘り出した石だった。

オブシディアン なに？

イスメネ 石だよ。

オブシディアン なんの石？ 誕生日はわかる？ その

石にどんなパワーがあるの？

イスメネ パワー？ ……そうだな、きみの胸に突き刺

してどくどく血を出すように、ほら、この石、とがっているだろ。それがこの石のパワーだ。さあ、刺してみようか。きみの胸に。

石を手にイスメネは構えるので、オブシディアンは逃げる。

イスメネ 待てよ。逃げるな。石のパワーに従え。

オブシディアン 狂ったの？ いま、あんた、目がいつ

もとちがうよ。まるで口から血を流した獣みたい。

イスメネ そうだ。俺は獣だ。逃げるなよ。

オブシディアン はなおも逃げ、

オブシディアン お願い。もうやめて。いつものあなたにもどって。

イスメネ (我に返り) あ、兄さん。まるでいま、一番上の兄さんがここにいたようだ。この石を手にしていると、懐かしい気分になる。だけど、それはひどく恐ろしい懐かしさだ。(石を耳にあて) 人を殺す音がする。

音楽が聞こえる。かすかに。

ふたり、その音を聞く。

そこに根本洋一が来る。

洋一 ありますか？ 『ニュータウン入口』。

オブシディアン いらっしやいませ。

洋一 通り一遍のあいさつはいらぬよ。それより、探してるんだ。どこに行ってもない。でも、ここはこの

あたりじゃ一番大きなビデオ屋だって聞いてきたんだ。ないかな、『ニュータウン入口』。

イスマネ 映画ですか？

洋一 そう。もう四〇年も前に作られたらしいって、聞いたんだけどね。

オブシディアン (なにか調べていたが) 借りられていますね。

洋一 あんな映画を？ 誰も知らないはずだ。もちろん、俺が知ったのもごく最近だがね、人に教えられて、ぜひ見るように言われた。そこにはこの土地の意味が描かれているそうさ。

オブシディアン もう一週間以上、延滞しているようですよ。

イスマネ 『ニューシネマパラダイス』じゃだめでしょうか？

洋一 なぜ？

イスマネ いや、こつちも「ニュー」ですから。

洋一 見たくない。

イスマネ じゃあ、『ニューアドベンチャー・スーパーマン』は？

洋一 知らないよ、そんな映画。俺が借りたいのは、

そこに大量のビデオを抱えたアンティゴネと、不動産業者の高村が来たので、

高村 (洋一に) もうご購入を決断なされたんですか？

洋一 おや、高村さん。

高村 あの土地、買うんですか？ へえ、買うのか。僕はある程度薦められませんが、なにしろ、磁場っていうか、土地の持つなにか異常な力が気になりまして、

洋一 売る気はないんですか？

高村 ありますよ。売る気はまんまんです。なにしろ、それが私の仕事ですから。ただ、誠意ってものはあります。お客様にご購入していただくのに自分が信じていない物件を紹介するわけにはいきません。売ればそれでいいってわけじゃありません。お客様に喜んでいただく。それがなにより、わたしども、カイン不動産がお届けする、「カナン」シリーズです。みんなが喜ぶ姿こそ、美しい街にふさわしいのですから。

洋一 美しい街……。たしかに、ここは美しい……。

高村 ……根本さんも、きょうはビデオを？

洋一 高村さんも？

高村 ええ、ビデオを。もちろんDVDもあります。アダルトビデオを五十本ばかり借りました。見てください。こんなにとくさん。ぜんぶアダルトです。きつぱり言わせてもらいますが、これぜんぶ、まぎれもなくアダルトです。

洋一 お好きなんですね？

高村 好きと言われると、なんていうか、語弊がありますが、まあ、ビデオってことになると、やっぱり……。

洋一 しかし、

高村 (遮り) あ、紹介しましょう。うちの会社でバイトをしているアンティゴネ君です。

それまでべつの作業をしていたイスマネ、その言葉に気がついて、

イスマネ (見る) 兄さん。

アンティゴネ (気がつき) おまえ。

高村 え、知り合い？

アンティゴネ 知りません。ええ断じて。誰？ 店の人？
ここで働いてるのは、女の子だけじゃないの？ そう
か、新しくバイトに入ったんだ。

イスマネ あ、ええ、つい最近です。ここで働きはじめ
たのは、まだ三週間ほど。ごく最近でした。以前は東
北人が社長をしている会社に勤めていました。

オプシディアン それ、嘘なんですよ。
イスマネ しっ。

アンティゴネ やだねえ、ここは女の子ばかりのレンタ

ルビデオでことで人気だったんだぜ。

高村 そうそう。サービスがあるんだね。

洋一 サービス。

高村 ええ、ちよつとした、まあ、あんまり大きな声で
は話せないんですけどね、

アンティゴネ (高村に) ええ、ニュータウンでもいち
ばんのサービス。(イスマネに) それをなんで、きみ
みたいな男がいるんだ。

そう言つてイスマネに詰め寄る。

イスマネ ですから、以前は東北人が社長をしている会
社に勤めていたのですが、

アンティゴネ 東北人？

オプシディアン それ、嘘ですよ。

アンティゴネ うそ？ (イスマネに) 嘘ってなんだ？

おまえ、おかしいぞ。

殴りかからんばかりのアンティゴネの様子に
たまりかね、

高村 アンティゴネ君、アンティゴネ君、アンティゴネ
君、アンティゴネ君、アンティゴネ君。こちらほうち
のお客様。ほら、話したろ、根本さん。挨拶して。

アンティゴネ (ようやく我に返り) あ。

洋一 根本です。

アンティゴネ はじめまして。アンティゴネと申します。

洋一 変な名前だね。

アンティゴネ・イスマネ いやあ。

二人、同時に照れる。

高村 あれ、アンティゴネ君。(ビデオを見て) これ、
なんだい。普通の映画が入ってる。

アンティゴネ いや。

高村 なんだいそれ。そんなもの借りてもしょうがない
じゃないか。ぜんぶアダルトじゃなきゃだめだよ。

アンティゴネ 『永遠と一日』。

高村 永遠と？

アンティゴネ だめですか。これだけでも借りちゃだめ
でしょうか。僕が観ます。

高村 返してきなさい。いますぐ、棚に。

アンティゴネ でも、僕はこれが観たいんです。

高村 きみの意見なんか、どうだっていいよ。きみの観
たい映画を借りに来たわけじゃないんだ。なんだ、え、

それ、永遠と？ 一日？ わからないよ、それじゃ、

言ってること、それ、おかしくないか？ 永遠と一日？

どういうことだ、それ？

アンティゴネ だからそのおかしなタイトルにひかれた
んです。

高村 返してこい。早く棚に戻してきなさい。

アンティゴネ、高村に追い払われて奥に戻る
うとし、

イスメネ 永遠と一日。不思議なタイトルだ。まるで俺
たちの時間のようだ。

アンティゴネ そんなふうには俺は生きてきたように感じ
る。あの日からずっと、時間は永遠に続いているよう
でもあり、だけど、あの日、いちばん上の兄が警察に
捕まった日が、いまでもずっと、その日として終わっ
ていないかのようだ。

イスメネ 永遠と一日。
アンティゴネ 永遠と一日……。

アンティゴネは行ってしまった。

高村 まったく、アダルト以外に映画って、ねえ、根本
さん、おかしいですよ。

洋一 おかしいですか？

高村 だってアダルトじゃないんです。

洋一 私は、普通の映画を探しているんです。

高村 あ。そうですね。普通の映画ですよ。映画は心
を豊にしてくれますからねー。

洋一 でも、アダルトも悪くはないです。

高村 アダルトも悪くないですよ。

洋一 ただ、いまは普通の映画を探していて、だけど、
見つからないんです。(イスメネに) 延滞してるって、
そいつに催促はしたのか？

イスメネ 催促？

洋一 『ニュータウン入口』。いまず、返すよう連絡

はできないのか？

イスメネ でしたら、その方の会員証がありますので、
お客様が直接、催促に言ったらいかがでしょう。(と
会員証を洋一に渡す)

洋一 (受け取って) F？

高村 (のぞきこみ) イニシャル？

洋一 誰だ？ 住所もなにも書いてないじゃないか。た
だ、Fとだけある。

高村 F？ 福原？

洋一 誰ですか？

高村 いや、同級生で、中学のときの、

イスメネ (客席に向かい) そう。その会員証には、た
だ、ローマ字で「F」とだけ書かれていたのです。

洋一と高村は、会員カードを見ている。

イスメネ ほかにはなにも記されてはいませんでした。
会員証を作るにあたって、身分証明はきつと必要にな
るでしょうから、その控えのコピーもあるはずだ。
ところが調べてみると、そこには、「記憶がない」と
しか記されていませんでした。それでよく会員になれ
たものです。いや、いいんです。それでも会員が増え
れば、入会金だけで、店は儲かる仕組みですから。

いつのまにか、ジャスパーとペリドットが戻
ってきていた。

ジャスパー ええ、そうでした。あの方はなにも記憶に
ないと言いました。

ペリドット 二十六年間ぐらいの記憶がすつ飛んでしま

って、家族のこともいまはわからないと話していました。

オブシディアン なにもわからないと、ただそう繰り返すばかりだったのです。

イスマネ それでも会員証を発行したんだね。

ペリドット だって、みんなが会員になるって、素晴らしいことじゃありません？

イスマネ 素晴らしいこと？

ジャスパール ここはニュータウンでいちばん大きなビデオレンタルショップ。

イスマネ 品揃えもしっかりしてる。

オブシディアン 店員はみんなセクシー。

ジャスパール かわいい子ばかり。

ペリドット さあ、はじまります。

オブシディアン 開演です。

イスマネ うん？（と少しなにか考えるが）、……映画

がはじまる。

それで、イスマネ、ジャスパール、ペリドット、オブシディアン、高村たちは姿を消し、残されたのは洋一。そしていつのまにか、その妻の和子の姿がある。

4 素晴らしき日曜日

そこはあの分譲地である。

洋一 九尺間口でいいな。

と、洋一は空に、家の間口を示すかのような仕草をする。以下、せりふに合わせて、二人はマイムで、なにもない空間に自分たちの理想を描いてゆく。

洋一 ここがガラスの扉だ。ガラスに大衆の珈琲店ヒヤシンス、金文字で。

和子 ううん、金文字よりコバルトブルーか何かのエンメルで。

洋一 でも、金文字のゴシックはいいぜ。

和子 コバルトよ、第一金文字は大衆の店って感じじゃないわ。

洋一 しかし……まあいいや。……まず回転ドアをこう

ここがカウンタード、お客様の前でコーヒーを淹

れるんだ。俺はコーヒー淹れるの天才なんだぜ。

和子 お菓子の入ってるガラスのケースがここね。

洋一 うん。

洋一、壁に額を見立て、

洋一 上品な油絵の額がこのへんにひとつ。

和子 窓のカーテンはしっとりしたコバルト。

洋一 またコバルトかい？

和子 それはまかせて。

洋一 客席はこのへん、なるべくゆとりとってな。

和子 お客本意。

洋一 うん。テーブルは大衆的な、こう、長テーブルで。

和子 絶対反対！

洋一 なぜ。

和子はべつの位置にテーブルがあるかのよう
な仕草をし、

和子 恋人用の小さなテーブルも用意してございます。

しっとりした雰囲気、大切よ。

洋一 どうしても蓄音機はいるな。

和子 レコードの内容は厳選。

洋一 流行歌はいかん。

和子 リンゴの歌くらいまではいいわよ。

洋一 売り物は主人自慢のコーヒー。

和子 女房手製のかわいいお菓子。

鳩男が舞台を横切る。

洋一 鳩も飛んで、僕たちを祝福してくれる。

和子 わたしお客よ。

洋一 いらつしやい。

和子 (笑う) おコーヒーひとつ、それからお菓子。

洋一 へーい。

和子 おや、もう出来たの。

洋一 どこかの店みたいにノロノロと、しかもひなた水
のようなコーヒーは飲ませません。

和子 なるほど、ちよいといけるわ。

洋一 ミルクはいかが、ミルクを入れても

二人 十円は頂きません！

二人笑う。

和子 ちよつと。

洋一 おえ？

和子 未来のことなんか考えられるか、夢なんて絶対に
持てないなんて言った人、だーれ。

二人笑う。

二人気がつくと、その周囲を、日本ダンス普
及会の者らを取り囲んでいた。

加奈子 いいえ。夢はもつべきです。

ポリュネイケス そう、あなたがたの夢はきつとかなう
でしょう。

坂庭 素晴らしき日曜日。

加奈子 素晴らしき日曜日。

ポリュネイケス 素晴らしき日曜日。いまはまだなにも
ないこの分譲地に、あなたたちの夢が実現します。だ
からダンスをしましょう。

洋一 ……いったい、あなたたちは、誰なんですか？

ポリュネイケス 日本ダンス普及会の者です。

坂庭 (加奈子を示し) こちらは支部局長さんです。

加奈子 支部局長のカナコと申します。

洋一 あ、根本です。根本洋一。

和子 妻の和子です。

坂庭 私は副事務局長の坂庭です。そしてあちらが事務
局長の、

ポリュネイケス 仮に、鈴木としておきましょうか。

洋一 仮に？

浩 のどが渴いた、ジュース、買って来ちゃだめ？

行こうとするが、

加奈子 がまんしなさい。

浩 (言われて不満そうに) ……。

ポリュネイクス ではこれから、支部局長より、ダンスの思想と理論を講義していただきたいと思えます。

加奈子 はい。では、楽にお話を聞いてもらいたいので、そこに、腰をおろしてください。

ポリュネイクス ビニールシートを用意してあります。

ほら、ピクニック用の。ピクニックにでも来た気持ちでゆっくり話を聞いてください。サンドイッチと飲み物も用意してあります。ほら、このバスケットに。

それで地面にビニールシートをひくと、最初にそこに腰をおろす。

加奈子 さあ。腰をおろして。

洋一 はあ。

洋一と和子、おずおずと腰をおろして。ポリュネイクスと並んで加奈子の話を聞く姿勢になる。坂庭は加奈子と並んで立ち、浩は、少し離れた場所でそれを聞く。

坂庭 それからこれ。本日の講義のレジюмеです。メモ用のペンもあります。

手にしていたコピーとペンを洋一と和子に渡す。

坂庭 用意ができました。

加奈子 ではダンスについて、まず基礎的なお話をいた

しましょう。レジюмеにざっとしたことが書いてありますが、お話の途中、わからないことがあったら、遠慮なく質問してください。

洋一 質問いいですか？

加奈子 まだ早いでしょう。まだなにも話してないじゃありませんか。

洋一 ……。

加奈子 さて、あらかじめ話しておかなければならないのは、ダンスを普及することの意義です。この土地にこそダンスは普及されなければなりません。なぜでしょう。わかりますか。あなたがたは、この土地に自分たちの家を建てようとしている。だったらわかりますね。そう、ここが美しい街だからです。

洋一 ダンスと街？

加奈子 ダンスと一口で申しても幅が広いですから、そのすべてを概観するのは時間的に無理があります。しかしダンスを横断的に見てゆこうと思うとき、たとえば、あるダンスとダンスを比べると、なんらかのスタンダードになるダンスがあったほうがいいでしょう。たとえば、日本人でしたら、ま、能や歌舞伎といった伝統があります。けれど、これらを勉強するためには、きわめて大きな断絶が、私たちとそうした伝統のあいだにはある。悲しいですね。

そのあいだ、浩は落ち着きなくあたりを歩く。ゆっくり、そこにいる者らの周辺を円を描くように。

加奈子 そこで、きちんとロジカルにシステム化されていて、海外のダンスのスタンダードでもある「バレエ」

は、一通り知るにはたいへんよいかと思います。ヨーロッパにおいて、パフォーミング・アーツとしての、あるいは端的にいうと「見るもの」としてのダンスといえ、ルネッサンス以来、十九世紀末までの長きにわたって、それは「バレエ」のことでした。

和子 わたし、からだがうずうずしてきちゃった。いますぐ、踊りたいんだけど、（と立ち上がろうとしたが）

加奈子 （制して）踊るにはまだ早い。
和子 でも、

加奈子 まずは思想です。
浩 お腹すいちゃった。

加奈子 がまんなさい。

浩、また押し黙って歩き出す。

和子 見るだけじゃつまらないでしょ。（洋一に）あな

たもそうでしょ。踊りたいでしょ。

洋一 いや、同意を求められてもさあ、

加奈子 つまりバレエしかなかったんです。

和子 は？

加奈子 ヨーロッパのみならず、系統だって存在したダンスは、世界的にみてもバレエしかなかった。しかもそれは、民族舞踊や大衆舞踊のような、自然に発生して、自然に形づくられたものではない。国家の庇護を受け、系統だって発展してきた、半ば、人工的な言語だといえるのです。それ、なにかに似ていませんか？似ていますね。さあ、根本さん、わかるでしょ。ここに家を建てようとしているあなたなら、

根本 まだ、こと決めたわけでは、

加奈子 （無視し）事務局長、わかりますよね。

ポリュネイクス 街です。

加奈子 そう。街。つまり、都市です。美しく計画された都市は、まさに、いま話したバレエのように人工的に整備されてはじめて成立するのです。人が穏やかに生きるための生活空間。それはひとつの実験だったかもしれない。ニュータウン。そこは私たちの故郷でした。行くあてのない私たちが帰って行く場所……。

浩 （なにか見つけ）虫だ。ねえ、虫、つかまえていい？
加奈子 だめ。どんなバイ菌がついてるかわからないでしょ。

がっかりして、また浩は歩く。

加奈子 （いきなり強く）舞踏とは命がけで突っ立っている死体だ。

洋一 え？

加奈子 ……ここ、メモしておいてください。舞踏は、ダンスの一種ですが、ブヨウとはちがいます。日本で生まれました。海外でも「BUTOH」の名前で通っていますね。かの土方巽先生がおっしゃった、「舞踏とは命がけで突っ立っている死体だ」というこの言葉は、べつにゾンビが踊るということではありません。街は、美しければ美しいほど、そこにゆがみが生まれる。人はおおむね、暗さをかかえていますからね。どこかに吐き出さなければいけません。けれど、それも美です。「命がけで突っ立っている死体」はとても美しい。

和子 あら、でも、死体は死んでるだけに、命がけで突っ立っても、できないんじゃないかしら。

洋一 素人は黙っていたほうがいいよ。

加奈子 理解というものは動きから生まれ、動きは理解から生まれるものでなければならぬ。

和子 ……。

加奈子 死と生とは分かちがたく一つだ。魂と肉体も離れがたく一つだ。それにもかかわらず死は誕生の如くに必ずやってくる。

和子 だから？

加奈子 宇宙のあらゆる現象は魂の姿を代弁しています。舞踏の作品とは母の胎から生命が誕生するように、生命から誕生する生命だと思っております。

浩 おしっこ、ここでしていい。

加奈子 だめ。

浩 がまんできない。

加奈子 もう少しよ。

浩、また歩き出す。

加奈子 えーと、舞踏の作品とは母の胎から生命が誕生するように、と、これはもう、話しましたね。ですから、(あらためて) 私は、私のからだのなかにひとり

の姉を住まわせている。

和子 へえ。

洋一 あの、この方(とポリュネイケスを示し)、眠っているみたいなんですが、

加奈子 ほっておきなさい。

洋一 でもですねえ、僕の中からだにもたれてまして、

和子 それで、あの、気になるのは、フォークダンスのことなんです。

坂庭 それはまた、あとで、

和子 だけど、あなたたち、フォークダンスの、あれな

んでしょ？

加奈子 (きわめて唐突だが) 母親のことですが、私は子どものときにわがままの限りを尽くしました。母親が死ぬまでわがままでした。

坂庭 大野先生の言葉です。

和子 大野先生？

加奈子 けれども、母親は私のためにすべてを尽くしてくれた。私のことをいつも信頼してくれた。それをいいこととして、母親が病気になるまで死ぬまで私はわがままの限りを尽くしました。

坂庭 大野先生の原点です。

加奈子 「母さん、ごめんなさい」としよっちゅう謝まる。習慣になっっている。すぐ謝りにゆかないとチャンスがなくなることまで知っている。母親は「お前の気持ちはよく知っているからいいんだよ」と、反対に私のほうがなくさめられる。母親が亡くなるとき、私は母の頭を、髪の毛をなで続けました。最後の最後まで、亡くなるまで、私はそうするほかどうすることもできませんでした。限りを尽くして、「母さん、元氣を出して」となでつけました。

浩 だめだよ、もう、がまんできない。

加奈子 がまん。

浩 できない。

加奈子 しょうがない子ね。わかったから、そっちなほうでいきましょう。お母さんが見ていてあげるから。

浩が行くので、それを追って加奈子も遠くに去った。

洋一 (坂庭に) この講義、いつまで続くんですか？

坂庭 いや、きょうは短いほうですよ。あと二、三時間
てところででしょうか。

洋一 そんなに。

坂庭 短いほうですよ。

和子 でも、待ってられないわ。しておかなくちやなら
ないことがあるの。だってそうでしょ、夕食の買い物
にも行かなくちやならないでしょ。

坂庭 もう少し待ってください。話はまともに聞かなく
てもけっこうですから。

和子 聞かなくていいの？

坂庭 話を聞くというその態度が大事です。だいたい、
話してはでたらめですから。

和子 え、私、すっかりノートを取ってました。

坂庭 それも大事ですね。

洋一 あの、この人、起こさなくていいんですか。ぐっ
すり眠っているようですが。

坂庭 眠らせてあげてください。

和子 おしっこは長いんですか？

坂庭 おしっこ？

和子 ですから、息子さんのおしっこ。

坂庭 どうでしょう。そんなにはかからないと思います。

和子 フォークダンスのことですけど……、

坂庭 ……。

長い沈黙。

しばらくして加奈子が来る。

加奈子 坂庭君。ちよっと、

坂庭 どうしました。

加奈子 浩が、
坂庭 (ひどく深刻そうに) はい。

二人、去った。

また長い沈黙。

洋一と和子、そして眠っているポリュネイケ
スだけが残された。

鳩男が来る。

鳩男 あれ、また先客？ まいったな、仕事がしばらく
て困るよ。なに、ピクニック？

洋一 そんなのんきなもんじゃやない。

和子 講義を受けてるの。

鳩男 じゃあ、邪魔になるかもしれないけど、俺も仕事
なんで失礼するよ。まあ、あんまりうるさくはしない
から。

それで鳩男は地面に穴を掘りはじめた。

また沈黙。

洋一 もう、帰ったほうがよかないだろうか。

和子 あなたもそう思った？

洋一 俺はビデオを探してたんだよ。映画のビデオ。ま
だ見つからないんだ。

和子 私は食事の準備をしなくちや。買い物に行つて、
それで下ごしらえして、……ねえ、きょうはなにが食
べたい？

洋一 なんでもいいよ。

和子 だめよ、ちゃんとこたえて。

洋一 もう行こう。

和子 ちゃんとこたえて。

洋一 俺たちは、ぼんやりここでなにしてるんだ。ビニールシートの上に腰を下ろして、まるでピクニックのようだ。それでいて、俺の横には、誰だか知らない人が眠っている。

和子 鈴木さん？

洋一 鈴木さんだっけ？

和子 そうよ、そんなふうに言ってたでしょ。仮に鈴木としておきましょう、とかって。

洋一 そばでは、鳩が地面に穴を掘っている。行こう。

ここにいたってしょうがないよ。

和子 あの人たち戻ってこない？

洋一 戻ってくる前に帰ろう。見つからないように。

和子 そうね。

洋一 この人を起こさないように。

二人、ゆっくり動き、ポリユネイケスをビニールシートの上に横にする。眠ったままのポリユネイケス。

洋一 眠っている。

和子 まるで死んでるみたい。

洋一 眠ってるだけだよ。

和子 死んだように眠っているのね。

洋一 うん。死んだように……。

二人、ポリユネイケスを見ていたが、やがて去ってゆく。

鳩男はまだ穴を掘っていた。

5 分譲地

アンティゴネが来る。

アンティゴネ こちら暗号名アンティゴネ。応答せよ。聞こえるか。俺の声が聞こえるか。弟よ。暗号名イスマネよ。ようやくおまえからの連絡は受け取った。しかし迂闊なことはするな。この街で俺に会ってもけっして知り合いのような顔はするな。俺たちは他人だ。あぶなかった。おまえがビデオ屋で働いているなんて知らなかった。だけど、うまく作ったものだ。東北人が社長をやってる会社か。そこで働いていたと、よくそんな作り話が出来たもんだ。成長したな。おまえもようやく大人になった。だから忘れるな。あの言葉をな。「人間の作った規則」よりも「神の定め給うた掟」だ。わかるか。聞こえているのか、イスマネ。きょうは日曜日。俺は探す。おまえもぼんやりしているな。この街に兄さんはきつという。ニュータウンから、ニュータウンへ。俺たちはこの街でしか、生きられないんだ。きつと兄さんもそうだ。だから、探すんだ。

風が少し吹いたのだ。

アンティゴネ (鳩男に) 穴はできたか。

鳩男 ええ、もうちよつとです。変ですな。ここいら柔らかい土が多いはずなんです。だって、よそから運んできた土で宅地を開発してるでしょ。地盤はゆるいはずなんだ。だけど、やけに掘るのがきつい。イス

メネが、土の中から妙なものも見つけるし。
アンティゴネ なに見つけた？

鳩男 石です。なんだこれ、って言うんで、それで見たら、石でした。かわった形の石でしたね。あれ、俺のみるところじゃ、自然石じゃないですね。人の手が入った人工石。人ったって大昔です。つまり、石器人。この地層からすると、前期石器より、さらに時代は前じゃないですかねえ。関東ローム層のそのさらに下。ってことは、

アンティゴネ おまえ、ほんとに鳩なのか。

鳩男 え、ああ、(投げやりに) くーっぽっぽぼ。くーっぽっぽぼ。

アンティゴネ 以前から気になってたんだ、おまえ、ほんとに鳩なのかって。

鳩男 (仕方なく) くーっぽっぽぼ。くーっぽっぽぼ。

アンティゴネ ああ、鳩だ。

鳩男 ええ。鳩です。

アンティゴネ ま、いいか。じゃ、いつものように、これ埋めといてくれ。(と手紙を渡した)

鳩男 承知しました。(と受け取った)

アンティゴネ 俺はゆくからあとはまかせたぞ。

それでようやく、ビニールシートに、ポリユネイケスが眠っているのを発見した。

アンティゴネ 一人じゃなかったのか。

鳩男 (穴を掘りつつ) ああ、さっきまで人がいました。でも、心配ないでしょう。どうせ、俺、鳩なんで、誰も変には思わない。だってそうでしょ。鳩を見て変に思う人間はいない。カラスだったららべつですがね。カ

ラスは嫌われるけど、そこへゆくと、鳩は好かれますから。

アンティゴネ 穴を掘る鳩は変じゃないか？

鳩男 ベつに。

アンティゴネ 誰なんだ、女だな。眠っているのか？

(ふと) そのとき、俺は妙な気分になった。眠っている女に、土をかけてやりたくなったのだ。鳩が掘っている穴から土を手にすると、それを女にばらまいてやろうと思った。なぜなのかわからない。

それで、アンティゴネ、土を手にすると女の上に行き、それを振りかけようとした。

そのとき、ポリユネイケスが持っていた携帯電話が鳴る。アンティゴネ、逃げるようにその場を離れ、ポリユネイケスの様子を見る。慌てて目を覚ましたポリユネイケス、携帯電話話に出て、

ポリユネイケス あ、はい。ああ。……え、そんなに。二週間。忘れてました。ということは、……ええ、延滞料が……、すいません。はい。……すぐに返しに行きますので。あの、あなた、お名前は？ ……え、なんですか？ ……それ名前？ ……あなた、東北の方？ ちがうの。……(驚いて) へえ。……ええ。……ええ。面白い。東北人の社長が？ そう。……そうだったの。……わかりました。……じゃあ、これから返しに行きますから。はい。

携帯電話を切ってカバンにしまう。

ポリユネイクス すっかり眠っちゃたわ。

あたりを探すが、仲間がいないのを不審に思
い、そしてアンティゴネに気づいた。

ポリユネイクス あなた、誰？

アンティゴネ 眠ってたんですね？

ポリユネイクス ここに、人がいなかった？

アンティゴネ 鳩しかいません。ただ、穴を掘ってるの
は変ですけど、疑問に思わないでください。あれは、
れっきとした鳩です。

ポリユネイクス (鳩男を見て) たしかに鳩ね。ちっと
もおかしくない。それより変なのはあなた。なんで土
なんか手にしてるの？

アンティゴネ 土の調査をしている者です。

鳩男 (穴を掘りつつ) さすがだねえ。潜伏生活をして
いると、すらすら嘘が出てくる。

ポリユネイクス 役所の人？

アンティゴネ 大学で地質学を研究しています。このあ
たりは大雑把に言って関東ローム層となっていますが、
しかし、新第三紀鮮新世紀末期から、第四紀洪積世前
期にかけて浅海に堆積した上総層群ではありません。こ
の上総層群は、より西側、つまりあちらですね、あち
らに向かって、その地層ほど古く、下位より、平山砂
層、連光寺互層、稲城砂層などの各層より構成されて
います。これらの地層は、いずれも東に向かって、五
から六度ほど、きわめてゆるやかに傾斜しています。
平山砂層、連光寺互層の中には、内湾浅瀬海棲、つま
り海に棲んでいた、マガキ、ウネナシトマヤガイ、ア
ズマニシキなどの貝化石を含んでいます。

ポリユネイクス ……。

アンティゴネ ……僕の話、つまらないですか？

ポリユネイクス 腹が立つほどつまらない。

アンティゴネ でも、ここから話が面白くなるんです。

立ち上がったポリユネイクス、行こうとして、

ポリユネイクス だめよ、ビデオを返さないといけない
の。お金、貸してもらえない？

アンティゴネ お金？

ポリユネイクス 延滞料よ。

アンティゴネ なんの映画を借りたんですか？

ポリユネイクス なんてあなたにそんなこと話さなくち
やいけないの？

アンティゴネ だったらお金は貸せません。

ポリユネイクス ……(少し考えた) じゃあいい。貸し
てもらわなかったっていい。延滞料ぐらい、自分でなん
とかするから。あなたって、そういう人ね。いつだっ
てそんなふうなのね。

アンティゴネ じゃあ、わかりました。(手の土を払い)

いくらになるんです？(と財布を取り出す)

ポリユネイクス こんどは人を乞食あつかい？

アンティゴネ ……。

ポリユネイクス、歩き出した。

アンティゴネ 行くんですか？

ポリユネイクス だから用事があるのよ。

アンティゴネ じゃあ、名前だけ、教えてください。

ポリユネイクス どうして？

アンティゴネ 知りたいだけです。

ポリュネイケス でも、延滞している映画の名前は教えられないわ。

アンティゴネ 知りたいのは、あなたの名前です。

ポリュネイケス ……仮に、草間とでもしておきましょうか。

アンティゴネ 仮に？ じゃあ、下の名前は？

ポリュネイケス そうね、……いまは何時？

アンティゴネ ちょうどお昼です。

ポリュネイケス じゃあ、真昼子。いい名前でしょ。草間真昼子。……さようなら。

そうしてポリュネイケスは行ってしまった。

アンティゴネはぼんやり見ていた。

鳩男 さてと、穴が完成しました。

アンティゴネ 遅かったな。

鳩男 いや、もうできてたんですけど、二人のやりとりを待ってたんです。うまく切り出すタイミングがなくて。いま、いいですよえ。もう少し、タイミングが

ずらしたほうがよかったですか？

アンティゴネ べつにいつだっていいよ。

鳩男 じゃあ、手紙をここに入れてと。日当、お願いします。

アンティゴネ もうひとつ、仕事を頼みたいんだが。

鳩男 わかっています。

アンティゴネ 手紙を運んでもらえるな。

鳩男 宛先はもちろん、

アンティゴネ 真昼子……。察しのいい鳩だよ、おまえ

は。だからときどき、おまえが人間に見えるときがあ

るんだ。

鳩男 くーっぽっぽぼ。くーっぽっぽぼ。

沈黙。

アンティゴネ ……いま、手紙を書くからな。三十分も

あればすむだろう。

声がした。イスメネだ。

声 アンティゴネ。

気がついて身構えるアンティゴネ。

アンティゴネ イスメネか？

声 ほかに誰かいるのか？

アンティゴネ 心配するな。俺のほかには、鳩しかいない。

イスメネが来る。

イスメネ 長い長い、この、おしゃべりのあとの倦怠感

はなんだろう。女たちの髪が、夏の生ぬるい風にゆら

れているのが、日差しに光って、それがまるで、うす

気味悪い、蜘蛛の糸や、虫たちの足に見える。そして、

僕の中から巻きつくようだ。からだをとらえられ、

僕は身動きができなくなる。駐車場のアスファルトの

地面に僕の影はない。こんなに日が照っているのに。

僕の影はない。そして、僕は聞く。正午を知らせる鐘

の音。いや、あれは誰かの悲鳴だ。誰の？

そのころ、アンティゴネは地面にあったビニールシートを持ち上げ、広げ、そして、位置をたしかめて、どこに置くか確認している。

イスメネ あ、兄さんのいつものくせだ。兄さんは、そうやってビニールシートをどこに置くか確認するんだ。そのくせが出ると決まって兄さんは……、誰だ、兄さん、こんどはいつたい、誰に……？

アンティゴネ おまえもか。おまえも、そうやって、にわか詩人になる。

イスメネ 誰に？

アンティゴネ 誰でもない。

イスメネ 嘘だ。

鳩男 真昼子。

イスメネ 誰？

アンティゴネ おまえこそ相手は誰だ？

イスメネ 兄さんは、そうやって何度も失敗した。だけれどいくら人を好きになっても、自分の心は開けないだろ。好きになった人になにも話せない。だって、僕たちはほんとうの自分のことを語るなんてできないんだから。

アンティゴネ それをいわないでくれ。余計に切なくなる。儀式さえすめばいいんだ。

イスメネ 儀式。上の兄さん、つまり僕たちが探しているあの兄さんのからだに土をかけること。死んだ上の兄さんを埋葬するための儀式。人の掟をやぶっても、神の使命にしたがう。だけど、上の兄さん、つまり僕たちが探しているあの兄さんは、ほんとうにもう死んでいるんだろうか。

アンティゴネ よし、ここでいいな。

ビニールシートの位置が決まったようだ。

イスメネ こたえてくれよ、兄さん。

アンティゴネ おまえはばかだ。

イスメネ いつもそれが。末の弟は、いつだってそんなふうと言われる。

アンティゴネ ばかの質問に答える必要はない。鳩。そのビニールシートの上に寝てくれ。儀式の練習だ。

鳩男 それはそれで、別手当は、もらえるんですか？

アンティゴネ もちろん。

鳩男 穴、手紙、儀式の練習。合わせまして……。

(と計算したが)じゃあ。

鳩男、ビニールシートの上に横になった。

アンティゴネ さあ、儀式だ。

それで土を手にする。

アンティゴネ おまえ、なにぼんやりしてるんだ。おまえもやるんだ。手伝えよ。

イスメネ 上の兄さん、つまり、僕たちが探しているあの兄さんはいま、どんな姿をしてるんだろう。痩せてるんだろうか。それとも、太ったんだろうか。僕らが知ってるのは、まだ十四歳だった兄さんだ。

イスメネも土を手取る。

アンティゴネとイスメネ、ビニールシートに横たわった鳩男を上から見る。

アンティゴネ さあ。やるうか。土をかけよう。人の掟をやぶっても、神の使命にしたがう。儀式だ。死んだ兄さんを弔うんだ。
イスメネ 上の兄さん、つまり僕たちが探している兄さんは、どうしてあんなことをしたんだろうか。
アンティゴネ 考えるな。

二人、土を鳩男にかける。顔にかかる土。

鳩男 ぼー。(と苦しそう)

イスメネ (気がついて) こいつ、鳩じゃないか。ぽっぽっぽ苦しんでやがる。

アンティゴネ だから練習だよ。

イスメネ 練習にならないよ。だって、鳩だろ。こんな茶番につきあつてられないよ。

アンティゴネ かける、もつと土をかけるんだ。

アンティゴネ、さらに土を手にして鳩男にかける。

鳩男 (苦しみ) ぼ、ぼ、ぼ。

アンティゴネ 暗号名イスメネ、やれよ、おまえももつとこいつに土をかける。

イスメネ だって、鳩じゃないか。

いつのまにか、Fが立っていた。

F 鳩をいじめるな。小さき生き物にも魂はある。鳩をいじめる者に未来はない。

アンティゴネ 見つかった。

イスメネ (Fに) そうなんです。さつきからこの人が鳩をいじめてるんで、それで、僕も注意してたんです。(アンティゴネに) やめなさい。鳩をいじめるとたいへんなことになりますよ。

アンティゴネ (小声で) うまいぞ。おまえ、腕をあげたな。

イスメネ (小声で) 兄さん、早く逃げたほうがいい。

F 鳩を逃がしてやんなさい。

アンティゴネ でも、鳩がベランダに来てフンをするって、街の人たちから苦情が来てましてね、あ、どうも、わたし、役所の者ですが、

F フンはするさ。鳩だからな。どうしてフンがいやなんだ。人間だつてするじゃないか。いくら清潔にしようたつて、人間こそがそもそも自然だ。自然は汚い。自然はそもそも汚れているんだ。

イスメネ (Fに気がついて) あれ、あなたはたしか…。ビデオを延滞しちやいませんか？

F おまえは？

イスメネ ビデオショップのバイトです。会ったでしょ、ほら、あれはいつでしたか？ 探してたんです。『二

ユータウン入口』、それを借りたいて人がいて、あなたが返してくれるのを待ってるんです。

F あれは埋めた。

イスメネ 埋めた、って、土にですか？ ビデオを？

F ああ、埋めるのが俺の仕事だ。

F、そう言うと、また以前のように土を掘り、そして石を埋めてゆく。

イスマネ あなたはいったい……。
アンティゴネ (小声でイスマネに) 誰だ？
イスマネ ……。

二人、Fのする作業を見ていたが、

鳩男 すると、俺は、助けてくれた人を竜宮城に運ばなきゃいけないんでしょうか？

アンティゴネ 誰もいじめてないだろ。

イスマネ だいたい、おまえ、鳩だろ。

鳩男 俺、鳩かい？

アンティゴネ 亀でもないのに、いじめられてたなんて、

勝手なこと言うな。

鳩男 俺、亀じゃないの？

イスマネ 鳩だよ。

と、それまで穴を掘っていたFが声を上げる。

F 水だ。

イスマネ どうしたんです。

F 水が出た。こんな造成地から水が出た。

鳩男も立ち上がり、そして、アンティゴネ、イスマネとともに、水が湧くのを見る。

イスマネ たしかに水だ。

アンティゴネ 喜びのうちに救いの泉から水を汲む。

イスマネ それは？

アンティゴネ 喜びのうちに救いの泉から水を汲む……。
(小声で) 俺はゆく。鳩。さっきの話、頼んだぞ。手

紙は早いうちに書くからな。

鳩男 はい。じゃ、またこの場所で。分譲地で。
アンティゴネ ああ。

アンティゴネ、去る。それを見ていた鳩もまた、アンティゴネが去ったのは逆方向に歩き出した。

F これは、湧き水か。それとも、水道管でも破裂したか？

イスマネ こんな土地に湧き水なんて出ないでしょう。

F おまえは知らないだけだ。この土地にも歴史はある。

イスマネ (ポケットから土のなから見つけた石を出して) これは、やっぱり、あなたが土に埋めた石ですか。

あなたは言っていましたね。槍型石器。それとも、ここから自然に出てきた石ですか？

F 俺は知らない。おまえの手柄だよ。

イスマネ これ、変ですよ。持っている、ひどく恐ろしい懐かしさがこみあげてくる。

F いわば、石におまえの意識が投影されている。

イスマネ あなた意外と哲学者ですね。

F いろいろあった。いやな思い出がいっぱい。人間、悲惨な経験をすれば、ちよっとした哲学者にもなろうというものだ。

イスマネ 哲学者もまた、ビデオは延滞するんですね。

F だから俺は埋める。記憶を埋める。おまえは土を掘れ。まだ若いからな。

イスマネ だからって借りたビデオまで埋めるってそれ、道理にかなってませんよ。

なにか万感の思いをこめ、

F いやな記憶は土に埋めてしまっただ。ビデオの延滞はいやだ。返さなくちゃならないと思ってるのに、つい返しそびれ、それで、気がついたら延滞料が莫大になってる。誰なんだ、延滞料なんて考えたやつは。イスマネ 延滞料は大目に見ます。いまずぐ借りたいって人がいますから、どこに埋めたかだけは教えてください。

F いやだね。

イスマネ どういうことですか？

F 自分で探せ。

イスマネ ヒントは。

F ニュータウン。

イスマネ 大雑把すぎますよ。

F 探せば見つかる。おまえもなにか探してるんじゃないのか。

イスマネ いや、べつに。

F 隠すな。

イスマネ なぜ知ってるんですか？ あなたは誰なんですか？

F やっぱり探してるのか。

イスマネ だましたんですね？ かまをかけ、それで僕のことをだました。ひどい人だなあ。ずるい大人だ。

F もう探すのはやめる。探したところでもない見つからない。

イスマネ だけど兄さんはまだ探そうとする。

F すべての戦いはあらかじめ敗北してるんだ。だから

ってあせるな。ペテンはもうやめる。小細工したところ

で、いいことなんて、なにもない。

イスマネ なんの話ですか？

F 戦い方だ。

イスマネ わからない。

F はまた、土を掘る。

イスマネ ねえ、教えてください。ビデオの場所。いや、そうじゃない。あなたが誰なのか。あなたの会員証にはFとしか記されていてなかった。

F それしか、書くことがないんだ。

イスマネ 記憶がないってほんとなんですか？

F ない。

イスマネ 人をごまかしてるんじゃないですか？

F なにも覚えていない。

イスマネ あなたは誰なんですか？

声がした。

声たち イスマネ。イスマネ。イスマネ。

イスマネ (気がついて) 声だ。もう昼休みは終わりが。

もう仕事に戻る時間だ。

イスマネは残り、そしてFは去った。

6 ビデオショップ

三人の女たちが来る。

オブシディアン、ジャスパー、ペリドットだ。

オブシディアン イスメネはいつものろま。

ジャスパー イスメネはぐず。

ペリドット イスメネはばか。

三人 変な名前。

オブシディアン 時計を見なよ。昼休みはもうとっくに

終わってる。どこ行ってたの？ みんな待ってたんだ。

昼休みは順番で休みでしょ。あんたが帰ってこなかったら、みんな休みに行けないじゃない。

ジャスパー わたし、食事に行っていない？

ペリドット わたしでしょ？

ジャスパー わたし思うの。(ペリドットに) わたし、

この仕事がとても好き。どんな人がどんなビデオを借りるか。それで、その人の趣味がわかる。なんでもな

いような顔をして受付してるけど、でも、ちらっと見るのね。へえ、こんな人がラブストリーが好きなのか、それから、こんなに穏やかそうな人が、バイオレ

ンスが好きなのか。それから、あんな人がアダルト、好きなんだって。それ見るとすごく面白い。

ペリドット 個人情報盗み見るのが好き。こつそり、

素敵な人が来たら、住所をひかえておくの。あとでどこに住んでるか、それを地図で調べて、あんなにいい

マンションに住んでるのに、こんな暗い映画見ているのか、ゴージャスなマンションで、こんな貧乏くさい

映画見てるのかって想像するとすごく面白い。

イスメネ 仕事が好きなんだ。だったら二人とも、昼食

ぬきで、働いたらいい。

ジャスパー それとこれとはべつ。

ペリドット それとこれとはべつ。

オブシディアン それとこれとは、まったくべつの話。

ジャスパー 誰か来る。

ペリドット お客さん？

オブシディアン どんな人？

ジャスパー なに借りる？

ペリドット アクション？ ホラー？ それともラブス

トリー？

入ってきたのは、根本洋一だった。

洋一 まだ、返ってきてないのか？

オブシディアン なんてしたっけ？

洋一 『ニュータウン入口』

オブシディアン またあなたでしたか？ でも、残念な

がら、まだ返却はされていません。

洋一 俺はもう、ここに何日連続で来てるんだ。ほかの

ビデオショップも探したよ。けどなかった。この店

にしかないってわかった。返ってこないのか？ それ

ほんとうなのか？ だましてるんじゃないだろうな？

オブシディアン まだですね。

洋一 まだまだまだ、って、何度同じこと聞かされりや

いいんだ。

オブシディアン わたしたちも最善の努力はしているつ

もりです。催促もしたいけれど、借りた方、どこにい

るのかわからなくて、でも、この街にはいるはずなん

です。

ジャスパー わたしたちも最善の努力はしているつもり

です。

ペリドット 最善の努力はしているつもりです。

オブシディアン しているつもりです。

洋一 わかったよ、俺が探しに行く。誰だっけ？ F？

どこにいるんだ？ 住所もなにも、わからないのか？

イスマネ 分譲地で見かけました。

洋一 分譲地。

イスマネ どこかで穴を掘っているはずですよ。

洋一 広いからな。この街も。分譲地だって、数多くある。

行こうとしたところへ、日本ダンス普及会の面々がやってくる。そのなかに、根本和子の姿もあった。

洋一 (気がついて) 和子？

和子 あら、あなた。

洋一 おまえ、どうして、その人たちと。

ポリュネイクス 和子さんは、私たちのお仲間になりました。

洋一 ダンスをするのか。

和子 踊らないわよ。普及と、そして勉強会をしているの。この方たち、とてもいい人ばかり。

加奈子 和子さんは、私たちの考え方に賛同していただきました。

坂庭 もうずいぶん活動なさってるんです。

加奈子 喜びのうちに救いの泉から水を汲む。

和子 喜びのうちに救いの泉から水を汲む。あなたも、こちらにいらっしやいよ。

洋一 ばか。そんな変なやつらの口車にのせられるな。

(加奈子に) どうせあれでしょ、そんなきれいごと言っているけど、実はマルチ商法でしたとか、宗教でしたってのが、オチなんですよ。

和子 それは誤解。みんなとても志の高い方よ。

加奈子 ダンスを通じてより美しい街にします。

和子 ゆくゆくは、フォークダンスも踊るのよ。坂庭 理論は学びます。

和子 踊らないの？

ポリュネイクス 踊りは理論と思想のあとです。

浩は、みなから少し離れ、棚を見ていたが、

浩 (いきなり) デイズニーも借りちゃだめ？

加奈子 だめ。

和子 さあ、あなたも仲間になりましょうよ。

洋一 俺はビデオを探してるんだ。

和子 なんのビデオ？

ポリュネイクス ダンスのビデオ？

坂庭 大野先生のビデオ？

和子 それとも世界のフォークダンス。

洋一 そうじゃない。

ポリュネイクス さあ、あなたも仲間になりましょう。べつになにも怖いことはない。ただ、この町のため

に私たちの仕事はあるんですから。

洋一 僕はまだ、この街に住むなんて決めていません。

和子 あなた、この街は素敵だと言ってたじゃない。

将来、子どもができて、安心して暮らせていける

って。

加奈子 そう、安全で、安心で、とてもきれいな街……

……

洋一 たしかにそうだけど……。

洋一、さらになにか言おうとするが、断念して外に出て行った。

加奈子 坂庭君。あとをつけて。きつとあの人もこの会に参加してくれるはず。話せばわかるはず。さあ、坂庭君。

坂庭 はい。

加奈子 (和子に) あなたからも言ってみようかい。

奥さんが説得するのがいちばんですからね。

和子 はい。

浩 きつとわかる。あの人も、きつとわかる。

坂庭、すかさず洋一のあとを追った。

ジャスパー (小声で) どんなビデオを借りるかしら。

ペリドット この人たち？

ジャスパー フランス映画？

ペリドット ヒッチコック？

ジャスパー イラク映画？

加奈子 あれ、あるかしら。

オブシディアン はい、なんでしょう。

加奈子 こう、人が、人と会って、それで謎が隠されているのを、ひよんなことから、知ってしまった人がそれからひどいめにあって、格闘するような。

オブシディアン それは、

イスメネ ああ、そういった映画でしたら向こうの棚です。人が、人と会って、それで謎が隠されているのを、ひよんなことから、知ってしまった人が謎の組織に追

われてひどいめにあって、したくもないのに、無謀に戦うような、いわゆる、ブルース・ウィルスのなつて

いうか。

加奈子 そうじゃないの。人が、人と会って、それで謎が隠されているのを、ひよんなことから知ってしまった

た人が、それからひどいめにあうような映画。

浩 デイズニーは？

加奈子 だめ。

イスメネ だったら、向こうです。(とさつきとは違う方向を指さす)

加奈子 (和子に) さあ、行きましょ。きょうは、和子さんの歓迎パーティです。ピザを食べて、美味しいワインも飲んで。それからビデオを観て楽しみましょ

ね。

イスメネの指さした方向に歩き出した。

ポリュネイケスも行こうとしたが、なにか気になることでもあるのか一人残り、

ポリュネイケス ……(イスメネに) わたし、あなたに

どこかで会ったかしら。

イスメネ いえ。

ポリュネイケス どこかで、むかし……。

イスメネ そんなふうに行われると僕も会ったような気がしてくるから不思議です。でも、会ったことありませんね。僕はねえ、あんまり友だちはいないんだ。ま

して女の人の知り合いなんてほとんどいない。

そこにやってきたのは、ビデオを大量に抱えたアンティゴネだった。

アンティゴネ

(気がついて) あ。きみは。

ポリュネイケス こんにちは。こんなところで会うなんて奇遇ですね。でも、この街に住んでいれば、どこかで再会するのは当然ですね。

イスメネ 知り合い？

アンティゴネ 真昼子。

イスメネ 真昼子？

アンティゴネ ……。

ポリュネイケス ……ビデオ、たくさん借りるのね？

アンティゴネ (ごまかし) これは、頼まれた仕事なんです。

ポリュネイケス なんのビデオ？

イスメネ そうか、わかった。兄さんが誰に恋をしたか。

歩き出したジャスパー。

ジャスパー わたし、食事に行ってくる。あとはお願いね。

ペリドット 先に行くの？

ジャスパー 順番。

ペリドット だったら、わたしが先でしょ。

ジャスパー わたし。

ペリドット わたしが先。

オプシディアン 喧嘩するくらいなら二人で行ってきたら。私、留守番してる。

ペリドット ほんと？

オプシディアン イスメネもいるから。

ジャスパー ありがとう。

ペリドット ふふ、イスメネと二人。

オプシディアン なに？

ジャスパー イスメネと二人。

ペリドット ふたりつきり。

ジャスパーとペリドット、微笑みながら外に

去った。

ポリュネイケス (なにかに気づき) あ。

アンティゴネ (誤解して) いや、これはべつに、アダルトビデオなんかではありません。

ポリュネイケス わたし、ふたりに会ったことがあるよ。うな気がする。ずっと過去。…わたし行くわ。

アンティゴネ どうしたんですか？

ポリュネイケス なんでもない。

アンティゴネ ですから、これはアダルトビデオではありません。もし仮にそうだとしても、僕の趣味ではなく、あくまで、バイト先の上司の趣味です。

ポリュネイケス ……かすかに思いました。

アンティゴネ 上司なんです。

ポリュネイケス 思い出しちゃいけないこと。

アンティゴネ ……なんですか？

ポリュネイケス (じつと二人を見た)

沈黙。

イスメネ 会ったことなんかありません。女の人と知り

合いになること、僕、ほとんど…でも、もしあなたが女じゃなかったらべつですが。って、冗談ですよ。(言って自分で笑う)

ポリュネイケス ……さようなら。

アンティゴネ 行くんですか？

ポリュネイケス (逃げるように) さよなら。

行ってしまった。

アンティゴネ 真昼子……。

それでアンティゴネ、イスメネ、オブシディ
アの三人、ポリュネイケスが去ってゆくの
を見ていた。

客席に向かってオブシディアンが、

オブシディアン 私は、

ビデオやDVDを貸すのが仕事です。

仕事は朝の十時から、夕方の六時まで。

もちろんアルバイトです。

高校を出てから就職しようかと思ったし、

親は進学しろと言ったのですが、

なにもする気になれず、

この街にある、

この店でバイトをはじめたのは去年のことでした。

もう一年？

もう少しか。

あまり遠くの繁華街に行くこともありません。

だって、この街にいれば、なに不自由なく暮らせてゆ
けますから。

洋服だって、繁華街に行かなくても手に入る。

映画館もあります。

シネコン。CDショップ。ブックオフ。

欲しいものはいここで手に入る。

私がこの街に引っ越してきたのは中学生のときでした。

新しくできた学校でした。

クラスはみんなが転校生。

みんなこの街に引っ越してきた家族ばかり。

夜、一人で道を歩いても怖いことはありません。

アンティゴネ 暗号名イスメネよ。

この街のことが少しはわかったか？

俺にはいくつかのことが見えてきた。

ここは、

俺たちが生まれ、そして育った街とよく似ている。

もちろん、それはあの日までのことだ。

あの日から俺たちは、世界を転々とし、

旅をしてきたはずだ。

そのあいだ俺は、ずっとなにかを憎悪していた。

なにを憎んでいるのかわからなかった。

ただ、俺たちの兄、

つまり俺たちが探しているあの兄さんを見つけ、

そして、弔えば、俺は解放されると思った。

憎しみがなにを生むのかわからない。

だが、俺は憎しみを持っていなければ生きてゆけない。

イスメネ この街はおだやかだ。

なにも起こる心配はない。

幸福なことだ。

だから兄さん、

俺はときどき、ここに暮らし、ごく普通に生活すれば、

それでいいんじゃないかと思うときがある。

もう上の兄さん、

つまり俺たちが探している、

あの兄さんを見つけなくてもべつにいいんじゃないか

って。

アンティゴネ 俺はそのおだやかさを憎む。おだやかさ

のなかで、上の兄さん、つまり俺たちが探しているあ

の兄さんは気が狂った。おだやかさが、兄さんを狂わ

せたんだ。

イスメネ おだやかさは悪いことじゃない。

オブシディアン おだやかさは幸福だわ。

アンティゴネ だが、俺は憎む。だから俺は、「人間の作った規則」よりも「神の定め給うた掟」という言葉を、何度も何度も、繰り返すんだ。

イスメネ そして兄さんは叫んだ、たいまつを燃やせ、俺たちの行為は、俺たちの燃やしたたいまつのは、新しい世代にひきつがれる……。

アンティゴネ それは上の兄さんの言葉か。つまり俺たちが探しているあの兄さんの……、

イスメネ いや、兄さんの……、

オブシディアン 舗装された長い道路がずっと遠くまで続いています。クルマが時折、通りますが、でもとても静かです。季節はこんな時期がいい。

沈黙。

オブシディアン あなたたち、知り合い？ あ、イスメネが言っていた兄弟？ あなたイスメネのお兄さんなの？

アンティゴネ (イスメネに) おまえ。

イスメネ 知らないよ、こんな人。

アンティゴネ ああ。ここではじめて会った。

オブシディアン ほんと？

アンティゴネ これ、一週間のレンタルで。(とまた大量のビデオを出した)

オブシディアン またアダルト。けっこうですよ。私はこちらだけ貸すのが仕事ですから。

イスメネ そう、お客様の趣味には介入しない。

オブシディアン でも兄弟なんですよ。お兄さんがこんなビデオ借りて恥ずかしくない？

アンティゴネ だからこんなやつ知らないよ。それに、これは僕の趣味じゃないんだ。

イスメネ もう、ペテンはやめよう。

アンティゴネ なんだ？

イスメネ Fが言っていた。穴を掘ってる男。土に石を埋めている男。もうなにも隠すことはないって言っていた。そこからはもう、なにもはじまらない。

アンティゴネ なに言ってるんだきみは。きみのことなんか僕は知らないよ。このあいだ来たとき、はじめてここで会ったんじゃないか。

イスメネ もう、ペテンはやめよう。すべての戦いはあらかじめ敗北してるんだ。だからってあせるな。ペテンはもうやめろ……。

イスメネ、そう言い残して去った。

オブシディアン わたし、なにもしゃべりません。だって私はここでビデオを貸しているだけですから。アンティゴネ ……。

二人、沈黙。

ややあって、ビデオを一本手にした高村が来る。

高村 アンティゴネ君、これも一緒に頼むよ。もちろん

アダルト。きみ、こういうの、好きだろ。盗撮もの。

すぐくマニアックなんだよ。好きだろ、きみ。好きだって言ってたじゃないか。

アンティゴネ いや、わたしは、

オブシディアン うそつき。好きだったら好きっていえ

ばいいじゃない。

高村 好きだよ。きみはこれが好きだ。盗撮もの。女子高生もの。女子高の更衣室。これから体育の授業。着替えをはじめる女子高生たち。制服を脱ぐと、そこに露わになる女子高生のからだ。白い肌。白いブラジャー。話してたら、なんだか、僕が興奮してきちゃったよ。っていうか、これ、見なくてもいいのかもしれない。だって、もう見たような気分だもん。見なくていいのかな。借りなくていいのかな。でも、アンティゴネ君のために、やっぱ、借りたほうがいいんだろうね。見たいだろ。

アンティゴネ ですから、僕はべつに、

高村 うそつけー。

オブシディアン そうよ。うそつき。

いつのまにか、ジャスパールとペリドットもそこにいたのだ。

ジャスパール うそつき。

ペリドット うそつき。

オブシディアン うそつき。

高村 いいんだよ、好きでもべつに、かまわないんだよ。アンティゴネ ちがう。

アンティゴネ、囲まれている。

オブシディアン やっぱりうそつきなのね。

ジャスパール ほんとのこと言って。

ペリドット 正直になって。

アンティゴネ だからちがうんだ。

声が聞こえる。

声たち うそつき。うそつき。うそつき。

声はさらに高まる。「うそつき」の声が次第に高まる。

アンティゴネ (叫ぶ) やめてくれ。

耐えられず、アンティゴネはその場にうずくまる。

声は消える。

オブシディアン、ジャスパール、ペリドットの姿はない。高村とアンティゴネが残された。

高村はあたりを見ている。ときおり地面から土を手にする。

7 分譲地

根本洋一が来る。

高村、気がついたが、なにも話さない。

アンティゴネはうずくまったままだ。

洋一 その、ビデオはなんですか？

高村 ……。

洋一 それ、もしかして。

高村 ……。

洋一 探してるビデオがあるんです。誰かが延滞してるって話なんです、知ってますよね、F。ほら、会員証を見たじゃないですか。

いつになく無口な高村だ。

洋一 どのビデオ屋にもなかった。人から薦められましてね、観ておいたほうがいいって。探してるんですよ。高村さんが持っているのは変ですけど、でも、念のため。それ、なんのビデオですか？

高村 ……。

洋一 教えてください。

高村に近寄って、そのビデオを確かめようとするが、高村、逃げた。

洋一 ……高村さん、きょうおかしいですね。どうしたんですか。どこか、からだでも悪いんですか？ 風邪ですか？ それに、アンティゴネ君も。

呼ばれてようやく、アンティゴネは顔を上げた。

洋一 (アンティゴネに) どうかしたの？

アンティゴネ ……。

洋一 高村さん。

高村 ……。

洋一 病気じゃなければ、なにかに悩んでるんですか？ 借金とか、そういったあれですか。会社が危ないとか。でも、僕にはなにもすることができないんです。ずっと

と節約して、たしかに貯金はできましたが、でも、それもみんな自分の家を建てたいだけですから。

高村 ……。

洋一 話してくれないんですか。無口な高村さんて、すごく変ですよ。

沈黙。

高村 根本さん。

洋一 ……。

高村 (ゆっくりかみしめるように) ダンスをしたくはないですか？

洋一 ……高村さんも？

高村 いいですよ。ダンス。フォークダンス。

洋一 それより僕はいま、ビデオを探すほうが、

高村 家は？ 土地はいいんですか？

洋一 もちろん、探しています。

高村 ここはいい街です。それもみんな、ダンスのおかげです。私たち、カイン不動産は、土地とともに健康もお客様に提供しています。アンティゴネ君。きみから説明してあげなさい。

ようやくアンティゴネは立ち上がった。

アンティゴネ ……わたしども、カイン不動産がお届けする、「カナン」シリーズは新しい宅地分譲のカタチです。……事業主から販売を委託された魅力的な宅地に大手ハウスメーカーとのコラボレーションで、安心と安全の建物をコーディネートしお客様へお届けいたします……。もちろん、建物はお客様のご希望を最大

限に叶えるため……、フリープランによる……、建築条件……、付……、土地分譲での……、「ご提供となります……。是非……、「カナン」シリーズの中から……、貴方だけの……、「約束の地」を見つけて下さい……。

洋一 約束の地。
高村 約束の地。

そこへ、日本ダンス普及会の加奈子たちが遠くに姿を見せる。和子の姿もある。それから、鳩男、ジャスパールとペリドットもいる。

加奈子 ここが、約束の地だ。

洋一 (驚いて) 人数が増えてる。おい、和子、どうしたんだ。

和子 あなたもいらっしやいよ。

高村 行きましよう、根本さん。

高村もその集団のなかに加わる。

洋一 ここは約束の地なんかじゃない。ただの分譲地だ。
加奈子 エジプトを出て、もう幾年月。ようやくここに

私たちはやってきた。

ポリュネイクス 見よ、わたしを救われる神。

和子 わたしは信頼して、恐れない。

加奈子 主こそわたしの力、わたしの歌。

ポリュネイクス わたしの救いとなってくださった。

加奈子 あなたたちは喜びのうちに救いの泉から水を汲む。

一同 喜びのうちに救いの泉から水を汲む。

それを何度か繰り返すうち日本ダンス普及会の者らは去ってゆく。

アンティゴネ ……喜びのうちに救いの泉から水を汲む、か。

洋一 あれはなんですか？
アンティゴネ マイムマイムですよ。フォークダンスです。

そのときまた、風が吹いたのだ。

洋一 気持ちがいいですね。森からの風ですか？

二人、舞台奥、背後を振り返った。

アンティゴネ この森もいずれ開発されるでしょう。みんななくなってしまう。子どもころ、まだ家の近くに森がありました。大人になってまた行ってみたんです。よく遊んだタンクの森ももうなくなっていた。

洋一 タンクの森？

アンティゴネ 丘の上にタンクがあったんです。あれは

上水のタンクでした。

洋一 どの話ですか？

アンティゴネ とてもいい街でした。

洋一 ここもそうです。やっぱりここに私は土地を買おうと思います。

アンティゴネ 森がなくなっても？

洋一 だってここも、かつては森だったじゃありませんか。

今度は二人、前方を見て、

アンティゴネ いいながめですね。ずっと向こうまでニュータウンが続いている。昔ながらの団地風の集合住宅がある。真新しいマンション。向こうのあれは学校ですね。それから駅。駅のまわりにショッピングセンター。大きなマーケット。

洋一 二階建てのささやかな家がここに建ちます。リビングには大きな窓を作ります。窓から日が差します。こうして景色をいつも眺めながら生活します。

アンティゴネ 幸福ですね。

洋一 ようやく手に入れた幸福です。

アンティゴネ 後悔しませんか？

洋一 なにを？

アンティゴネ 幸福を。

洋一 あなたは幸福がきらいですか？

アンティゴネ 嫌いじゃない。だけど、ずっと縁がなかった。

森からFが姿をあらわした。

F 街にも裏には裏がある

鳥も通わぬ、森というが

おてんとさまも 影見せぬ

暗くて臭くて、穴のよな

犬の小屋かと、思ったら

どういたしまして、

人間が住んでおります、生きてます

衛生論も、体面論も

みんなみんな、パイノパイノパイ

F、また土を掘る。それを洋一は見て、

洋一 あなた、もしかしたら、Fさんですか。ビデオを延滞しているFさん。聞きました。分譲地で穴を掘ってる男がいる。あなたなんですか？ ビデオを返してください。見たいんです。

アンティゴネ 森に住んでたんですね。

F 嫌われ者だよ。嫌われ者が棲めるのは、あんな場所しかないんだ。

アンティゴネ 僕もそうです。ずっと嫌われ者でした。どこにいつても追い出された。だから旅をしていました。

F 森はきつとなくなる。俺も追い出される。

洋一 ニュータウンは広がってゆきますからね。

F みんなどこかに追い出される。もうしょうがない。なにしたらってしょうがないんだ。

アンティゴネ 憎しみはないんですか？

F 憎しみはいつか負ける。

アンティゴネ 僕は憎しみをつづけたい。兄さんを狂わせた街を僕は憎みたい。

F すべての戦いはあらかじめ敗北してる。ペテンはもうやめる。いくら隠れていてももうはじまらない。

アンティゴネ やつらへの戦いを、僕はつづけたい。

洋一 やつらって誰です。

アンティゴネ 根本さんもここに土地を買って家を建てる。だったら、僕にとっては敵だ。根本さんもいつかはマイムマイムを踊るんだ。

洋一 踊りませんよ。

アンティゴネ いつのまにか踊っているんです。マイム
マイムはそういうダンスです。

洋一 踊らない。

アンティゴネ ここに住むんでしょ？

洋一 ここに？ ああ、そうするつもりだが……、それ

でいいはずだが……、まずはビデオを観たい。『ニュー

ータウン入口』。

アンティゴネ 『ニュータウン入口』？

F 森のなかに埋めた。

洋一 森？ 埋めた？

F その向こう。

洋一、森を見る。そして、森に向かって走り
去った。

アンティゴネ その映画にはなにが映ってるんです？

F 知らないよ。

アンティゴネ 観てないんですか？

F ビデオもなければ、DVDだってない。観たくても

観られない。

アンティゴネ 不思議な人だな、あなた。なにをしたい

のかさっぱりわからない。穴を掘ってなにをしている

のか、埋めるのが仕事って、いったいどういうことな

んです？

だが、Fは応えず、やはり土を掘る。

加奈子と坂庭が来る。坂庭は、籠に入れた鳩

男を連れてくる。

アンティゴネ (気づいて) 鳩。

鳩男 (元気なく) くーぼっぼぼ。くー……、

加奈子 鳩は籠に入れて飼っておくべきよ。

アンティゴネ 文鳥やオウムじゃないんだ。鳩は鳩だ。

公園に飛んでるのが鳩だ。マンシヨンのペランダに来

るのが鳩だ。鳩が棲むのは籠なんかじゃない。

鳩男 これじゃ仕事になりやしないよ。

加奈子 坂庭君、さあ、鳩を、籠に入れたまま森の池に

沈めてやりなさい。ほかに殺し方はいくらでもあるけ

ど、それがいちばんおだやかな死だからね。

鳩男 (なにかを訴え) くーぼっぼぼ。

アンティゴネ なんで殺すんですか？

加奈子 フンの始末は誰がするの？

鳩男 (さらに) くーぼっぼぼ。

加奈子 街に生きる鳩は死に場所がわからないの。だか

ら迷っているのよ。だから、これも親切。鳩のために

森に戻すの。

アンティゴネ 鳩。

坂庭 さあ、森に行こう。森はとても静かだよ。最後の

姿は私が見てあげるからね。

鳩男 これが俺の運命なんだな。短い人生だった。だけ

ど俺は、俺の人生をまっとうした。鳩として立派に生

きた。自分で言うのもなんだが、俺は、鳩のなかの鳩

だったよ。

加奈子 ああ、かわいいそうな鳩。見てられないわ。さ

あ、坂庭君、早くしなさい。

坂庭 はい。

坂庭、鳩男を運んで森のほうへ。鳩男は鳴き
続ける。

アンティゴネ、追って、

アンティゴネ 鳩、死ぬな。そんなに簡単に死ぬな。おまえが死んだら、俺たちの手紙は誰が届けるんだ。

F (制するように) 行ってもむだだよ。

アンティゴネ、立ち止まり、

アンティゴネ だけど、鳩が死ぬんです。

F 手紙はもう届かない。

アンティゴネ どうして？

F もうペテンをしようがない。戦いはあらかじめ敗北してるんだ。

アンティゴネ 僕はあきらめません……。

やがて意を決したようにアンティゴネは森のほうへと去った。

また風が流れただろう。

加奈子 (ふと) あなたを探すのにずいぶん時間がかかりました。

F よく見つけたな。

加奈子 あなたが掘った遺跡をすべて調べました。

F すべてがインチキだった。

加奈子 どこかにきつとあなたはいる。

F みんなでたため。旧石器はすべて嘘だった。みんなまやかし。ぜんぶがペテン。もうペテンはやめよう。

加奈子 あなたは悪い夢を見ていたのね。

F 夢じゃなく、俺の戦いだった。だが、それももう終わり。戦いは終わりで。すべてはペテン。まやかし。

ごまかし。嘘八百……。

ポリュネイケスが来る。

加奈子 (気づいて) どうしたの？

ポリュネイケス 浩君が。

加奈子 あなたになにか迷惑かけたの？

ポリュネイケス そうじゃなくて、

F 浩も、もうずいぶん大人になっただろう。

加奈子 ええ、もう大人です。だけど、あの日から、成長が止まりました。大人になることを拒否するように、

いまでも、ずっと子どものままで……。

F いつからだって？

加奈子 あなたが家を出て行ってから。

F 出て行かざるをえなかった。俺は稀代の詐欺師だ。新聞は書き立てた。週刊誌に追われた。家にまで記者

たちは追いかけてきた。身を隠さなけりやおまえたちがひどいめにあう……。

沈黙。

ポリュネイケス (ようやく) 浩君がどこにもいません。

加奈子 ……それどういふこと？

ポリュネイケス 見つからないんです。

加奈子 よく探したの？

ポリュネイケス どこにもいないんです。いつもの帽子も、カバンもありませんでした。出て行った浩君を誰

も見ていません。いつのまにか小屋を出て行ったようです。森に向かったのかもしれません。

それで三人、背後を振り返る。
向こうには森。

ポリユネイケス それから、浩君がお気に入りの、あの

黒い石もありませんでした。

F 石が好きなのか？

ポリユネイケス 黒曜石。

加奈子 ……。

そのまま、加奈子は黙って去った。

Fとポリユネイケスはそれを見ていたが、

F 浩もいなくなつた……。浩には妹もいた。里美。里

美もいなくなつた。仲のいい兄妹だつた。

ポリユネイケス 家出したんですか？

F 死んだんだ。……だから、浩も。

ポリユネイケス ……。

F ……どうしてあんたは、あいつと一緒にいるんだ。

まだ若いんだろ。ほかにすることがあるだろ。ダンス

なんかに興味があるのか？

ポリユネイケス わたしもやっぱり、あなたと同じです。

追われてここにたどりつきました。

F きみは誰だ？

ポリユネイケス、客席に向かって、

ポリユネイケス わたしはここに生きています。

けれど、死んでいるのかもしれない。

街を歩いて、街の音を聞くと、

生きていると感ずます。

古い写真をすべて焼いて、

その焼いたときの感光紙の燃える匂いを思い出すと、

死んでいるように感ずます。

人ごみにまぎれて街を歩くとき、

誰もわたしに気づかなくて、

わたしは誰でもないから、

たしかに生きています。

ラジオから音楽が流れて、

それが懐かしい歌で、

あのころ、

夜、ひとりでラジオを聞いていたのを思いだし、

死んでいるんだと気がつきます。

大きなスーパーがあるこの土地が好きです。

記憶なかなかにもない、

時間の堆積のない、

この人工的な街が好き。

けれど、それがニュータウンだと教えられると、

わたしは、わたしのからだ、

もう存在しないのだと思える。

わたしはやっぱり、死んでいるのですから。

弟たちが、かわいそう。

わたしは人々のなかで死んでいる。

弟たちは人々の法をおかし、

わたしを弔おうとする。

人間の作った規則より、

神の定め給うた掟……。

でも、それがなんになるの？

人の流れに逆らって歩くことが、

なんになるの？

F、立ち上がり、そして歩きつつ、

F なんにもならない。俺たちはみんな、最初から負けているんだ。

行ってしまった。

ポリユネイケスは、いま立っている地面になにかを見つける。土の中から掘り出し石を手にした。石を見つめるポリユネイケス。ただ、立ちつくす。

8 森

舞台の後方は森。

ややあつて、べつべつの方角から、アンティゴネと根本洋一が来る。

アンティゴネ (気づき) 見つかりましたか？

洋一 あなたも探してるんですか？

アンティゴネ 僕が探しているのは鳩です。見ませんでした？ こっちのほうに来たはずです。そっちに池はありませんでしたか？

洋一 (背後を示し) 向こうには小さな祠がありました。誰もお参りに来ないんでしょうか。もう朽ちかけた祠でした。

アンティゴネ じゃあ、ビデオは？

洋一 森といっても広いですね。そこらを少し掘ってみました。出てくるわけがない。むやみに掘ったところ

で、なんにも出てきやしませんよ。見てください、こんなに手が汚れてしまった。

アンティゴネ 僕、鳩を探します。

洋一 見つかりませんよ、きつと。

アンティゴネ あなたもあきらめるんですか？

洋一 こんなに手が汚れたんです。

アンティゴネ いいじゃないですか。あきらめないでくださいよ。探してください。ビデオ、きつと見つかるはずだから……。

洋一 ……。

それでアンティゴネは走り去った。洋一はその場に残る。

加奈子が森をゆっくりと横切る。ひどくゆっくりとした足取り。そして小声で、それはごくごく小さな声で、「浩」と声を発する。

加奈子がゆっくり時間をかけて通り過ぎた。

洋一 いやだなあ。

こんなに汚れちゃった。

子どもの頃から、きまって母親は言ったんだ。家に帰ってきたらすぐに手を洗いなさい。

だからそれが、ずっとしみこんで、

少しでも手が汚れたらがまんできなかった。油でべたべたした手もいやだ。

すぐに石けんで洗った。

ポケットにはいつもハンカチ。

白いハンカチだ。きれいにたたまれたハンカチ。

洗ったばかりのハンカチ。

洗剤の香りがした。

その匂いを嗅ぐと、母親のことを思い出す。

家に帰ってきたらすぐに手を洗いなさい。

手を洗ったら食卓にはホットケーキ。

洗わなければおあずけ。

母親は俺が十四歳のとき家を出ていった。

なにも言わずに出ていった。

だけど、手を洗う習慣は変わらない。

洗剤の香りと、ホットケーキの匂い。

いまでも、

手を洗うときまってそれを……。

洋一、ゆっくり去る。

9 分譲地

ポリユナイケスはまだ石を見ていた。

いつのまにか、同じように石を手にしたイス

メネとオブシディアンがいて、三人は、ちょ

うど三角形を形作る位置に立っている。

少しして、浩が来る。浩の手にはビデオがあ

る。三角形の中央に浩は来る。

浩 俺には妹がいた。

そう思いこんでいるだけだろうか。

俺には妹がいた。

三つちがいの妹。

妹がいなくなつて、俺は何度も妹に手紙を書いた。

ポストに投函されなかった手紙。

なにしろ宛先がわからないからな。

俺は自分のしていることの半分もわかっちゃいない。

ずっと俺は子どもふりをし、

ふりをしているうちに、

ほんとうに子どもになつていた。

あれは手紙だったのか？

そこに俺はこう書いただろう。

「妹よ。」

一行目にいつもそう書いた。

そう書いてはすぐに消した。

俺がおふくろのそばを離れたのは、きょうがはじめて

じゃない。

覚えているか、「妹よ。」

やつぱり森のなかに俺は逃げた。

それというのも、夕食に嫌いなおかずがあったからだ。

それだけだ。

「妹よ。」

覚えているだろ。

それで俺は、一晩中、森をさまよつた。

おふくろも、そして、おやじも探した。

そう、俺たちのもとを去つたあのおやじだ。

俺が見つけられたのは、翌日になつてからの朝だ。

村の消防団員たちが森を探し、

古い祠のかけで眠っている俺を見つけたという。

よく覚えてないんだ。

それで俺は手紙を書いたな。

「妹よ。」

そうだ、やっぱりそんなふうに書いたよ。一行目に。

だが、ほかになにを書いたかよく覚えていない。だけど、

おしまいに、こんなふうに書いたはずだ。

そこだけはしっかり覚えている。

あの手紙はおまえに届けられたのだろうか。

「妹よ。」

「終わりに、もうひとつだけいうことがある。

消防団員四人が死んだ猿でも運ぶように俺の両手、両足をぶらさげ、雨滴をふくんで宙に浮ぶ湖のような森を横切った時、妹よ、俺は樹木と蔓の囲む硝子玉のように明るい空間の、核心をなすひとつを見たのだ。そのなかには、妹よ、娘に成長したきみが入っていた。きみは燃えるように美しい恥毛で下腹部をかざっているほかは、全裸の躰じゆうをバターの色に輝かせて、その傍らには、再生し回復した犬ほどの大きさのものがつきそっていた。」

ややあつて、アンティゴネが来る。

アンティゴネ きみが手にしているそれはビデオか？

浩 見つけたんだ。

アンティゴネ 土の中から？

浩 『ニュータウン入口』。

アンティゴネ じゃあ、鳩は見なかったか？ 森に行っただんたろ。池に沈められようとしている鳩を見なかったか？

浩 鳩は嫌いだよ。

アンティゴネ 応えろよ、見たのか、見なかったのか？ いくら探しても見つからなかった。森は深いな。どこまでも続く。池の場所なんてわかりやしなかった。

浩 鳩を殺せって言ったのは僕だよ。

アンティゴネ きみは……。

浩 鳩はきらいだよ。美しい街に鳩はいらない。あいつらフンをする。いやな匂いがする。ばたばた羽根音をたてて僕を怖がらせる。だから殺すんだ。美しい街に鳩はいらない。

アンティゴネ おまえ、

それでアンティゴネは、浩に殴りかかろうとしたが、

ポリュネイケス (叫ぶ) やめて。

声に驚いて、殴りかかろうとしたその手が止まる。

アンティゴネ ……なぜ？

ポリュネイケス 人間の作った規則より、神の定め給うた掟？ でも、それがなんになるの？ 人の流れに逆

らって歩くことが、なんになるの？

イスメネ 兄さん、ペテンはもうやめよう。あらかじめ、

僕たちは負けているんだ。

アンティゴネ 負けてなんかいない。

ポリュネイケス わたしのこと、いくら叩いてもしようがないのよ。わたしはもう死んだの。そして、またべつわたしがここにいるの。

沈黙。

アンティゴネ 真昼子……。
ポリュネイケス そうじゃない。

沈黙。

アンティゴネ ……兄さん？ 上の兄さん、きみは、つまり……、俺たちが探していたあの兄さんなのか？
イスメネ もう芝居は終わりにしよう。
アンティゴネ 嘘だ。
ポリュネイケス あなたが見ているのが真実。
アンティゴネ きみは真昼子だ。
ポリュネイケス ちがう。
アンティゴネ うそだ。……うそだ、うそだ。（声は消え入り）うそだ、うそだ……。

そうしてまた、アンティゴネはうずくまった。

ポリュネイケス ……この街はこんなにもよろこびに充ちている。

アンティゴネ （顔を上げ街を見る）
ポリュネイケス 見えるでしょ、街。
アンティゴネ ああ、あのころの街だ。とてもおだやかな街だった。そこで俺は子ども時代を過ごした……。
ポリュネイケス いい街でしょ。
アンティゴネ 俺が育った街だ。
ポリュネイケス さあ、はっきりわたしのことも見て。
アンティゴネ 兄さん？
ポリュネイケス そう。

アンティゴネ ……イスメネ、おまえは知っていたのか？
イスメネ はじめから、ぜんぶ終わっていたんだよ。
アンティゴネ おまえは生きる方を選び、俺は死ぬ方を選んだ……。

沈黙。

オブシディアン （石を手にし）石を手にしていると、なにかが聞こえてくるように感じる。
イスメネ 石から？
オブシディアン 石から。
イスメネ 石を手にしていると、恐ろしい懐かしさがよみがえってくるように感じる。
ポリュネイケス 石を手にしていると、オブシディアン 石を手にしていると、イスメネ 石を手にしていると……、アンティゴネ ……。

やがてアンティゴネ、浩が手にしているビデオに目をやり、

アンティゴネ ニュータウン入口……。どんな映画なんだろう？
浩 知らない。

そして、アンティゴネはおだやかに語りはじめる。

アンティゴネ そうだな……。もう芝居は終わりにしよう。そして、この逆境の中から、新たに、俺たち自身

をたたき直し、闘いを組みなおしてゆけば……。俺は、これから一人でも、もう一度始める。自分に素直に、やりたいようにやって、最後までやり通す……。

ポリュネイケス、イスメネ、オブシディアンの三人、石を手にアンティゴネに近づく。

アンティゴネ みんな、もういいんだよ。

芝居はやめようといったろ。

もういいんだよ！

もういいんだ……、

もういいんだ……

そんなに、みんな優しく慰め合うことはいらなんだ。

芝居は終わりだ。

ペテンはすべて終わりだ。

……俺一人でやる。

……俺一人で行く。

ポリュネイケス 死なないで。

イスメネ 兄さん、死んでもしょうがないよ。

アンティゴネ ほかに方法はない。新しい時代の、新しいやり方がきつとある。

それで意を決したようにアンティゴネは去った。

ややあつてから、ポリュネイケス、イスメネ、オブシディアンの三人もまた去ってゆく。

そこには、ビデオを手にした浩だけが残された。

ぼんやりした時間。やがて、

浩 (奇妙な笑い) ふふ、ふふふふ。鳩は嫌いだよ。鳩は殺さなくちゃだめなんだ。ふふ、ふふ……。

また長い沈黙。

やがて、日本ダンス普及会の坂庭が登場し、舞台前で、ビデオのセッティングをする。それからオーディオのスイッチを入れたので、おだやかな音楽が流れる。

セッティングしている途中で加奈子が来て、その様子を見ていた。

さらに、和子、高村、ジャスパール、ペリドットが登場する。

和子 おはようございます。

皆、どこか、楽しそうに軽く挨拶を交わす。そして、最後に現れたのは、根本洋一だった。

加奈子 いらっしやいませ。

洋一 お邪魔します。

和子 あなた、きょうはとても顔色がいいわ。いつもよりずっと健康そうに見える。

洋一 肩の荷が降りたからかな。土地の契約が終わったから。

高村 ありがとうございます。私ども、カイン不動産は、お客様のご要望にお応えし、

加奈子 (さえぎって) それより、きょうは、パーティー

でしょ。仕事の話はまたにしてちょうだい。根本さんをこの会にお招きする大切な歓迎の日じゃない。

高村 はい。

洋一 みなさん、よろしく願います。
皆 (口々に) よろしく願います。

挨拶もすみ、

坂庭 ビデオデッキのセッティングも終わりました。

洋一 なにがはじまるんですか？

和子 映画を観るのよ。きょうは楽しい映画鑑賞会。

ペリドット なんの映画？

ジャスパール ラブストーリー？

ペリドット サイコホラー？

高村 アダルトですか？

和子 ……(とがめ) 高村さん。

高村 はい。

浩が手にしていたビデオを出し、

浩 じゃあ、この映画。

皆、その浩に注目し、そして静止した。

浩 ……これが観たい。

加奈子 ……そうね、その映画ね。

浩 『ニュータウン入口』。

坂庭、浩からビデオを受け取り、それをデッキにセットした。

坂庭 はじめましょうか。

和子 お願いします。

洋一 観たかったんです。ずっと探していた映画です。
どんな映画なんですか？

加奈子 観てみなければわからないわ。

高村 じゃ、根本さん、ここ、真ん中で見てください。

洋一 いや、僕は、

高村 どうぞ。(と言ひ、真ん中に座っていたペリドットに) きみ、ちよっとさ、遠慮ってものをさ、

ペリドット はい。

洋一 すいません。

恐縮しつつも洋一も腰を下ろした。

それで皆、床に腰を下ろして待つ。

加奈子 さあ、明かりを消して。

皆、スクリーンに注目した。

と、ふとした間ののち、照明が消えた。

映画が上映される。

それは、映画『ニュータウン入口』のラストシーンだ。

ニュータウンの風景。

ごくあたりまえの風景。

幸福そうな街の風景。

なぜか鳩男が池を泳いでいる。

さらに風景。

ニュータウン。

アンティゴネがいる。
映画音楽。
やがて映像も溶暗。
映画の終わりにふさわしくエンドロールが流れる。

そして、映画も終わり――

了

『パレスチナ・ナウ』四方田犬彦
『リウスのパレスチナ問題入門』山崎カヲル訳
『中東虚構の和平』ノーム・チョムスキー 中野真紀子訳
『パレスチナとは何か』エドワード・W・サイド 島弘之訳
『パレスチナ』広河隆一
『同時代ゲーム』大江健三郎
『都市叙景断章』桐山襲
『日本旧石器時代』芹沢長介
『岩宿の発見』相沢忠洋
『神々の汚れた手』奥野正男
『発掘捏造』毎日新聞旧石器捏造取材班

ほかにも数多くの参考文献、
ならびにネット上の情報を参照してこの戯曲は書かれた。

主な、引用ならびに参照

『郊外の社会学』若林幹夫
『東京から考える 格差・郊外・ナシヨナリズム』東浩紀、北田暁大
『ファスト風土化する日本』三浦展
『聖書 旧約イザヤ書』新共同訳
『アンティゴネー』ソポクレス・柳沼重剛訳
『舞踏譜』大野一雄
『美貌の青空』土方巽
『西麻布ダンス教室』桜井圭介
『ぼくらが非情の大河をくだるとき』清水邦夫
『素晴らしき日曜日』(映画) 黒澤明
『パラダイス・ナウ』(映画) ハニ・アブ・アサド
『幽閉者 テロリスト』(映画シナリオ) 足立正生
『現地ルポ パレスチナの声、イスラエルの声』土井敏邦

